

仙台市文化財調査報告書第57集

年報 4

昭和 57 年度

昭和 58 年 3 月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第57集

年 報 4

昭 和 57 年 度

昭和 58 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 员 会

序 文

市民の文化財への関心が、一段と高まってきたを感じた年でした。郡山遺跡の現地説明会（9月23日実施）では、約550人の方々が来跡され、掘立柱建物跡や暗文土器をみて、7～8世紀頃の郡山地区を脳裏に想い浮かべたのではないかでしょうか。また、古建築のみかたについての文化財講座（3月12、19日、26日実施）では、受講希望者が200名もあり、土曜日の午後にもかかわらず、熱心に受講されました。市民の方々が、それぞれの立場で、自己の研鑽を深められていることを痛感させられました。

このたび、仙台市教育委員会作製の「仙台市の文化財分布図」を改訂し発行しました。今まで行なわれた各種の調査をもとにして、加除訂正を行ないました。市民の皆様に広く活用していただければと思います。文化財とは、「先人の築いた智慧の証し」ともいえます。その智慧を、我々の生活に生かすことが、仙台市を考えている“豊かで個性と魅力のある新しい杜の都”的基盤づくりにつながるものと考えます。

本書は、1982年度に行なった仙台市教育委員会の文化財保護行政の事業報告及び小規模開発に伴う発掘調査報告、そして、美術工芸関係の調査報告をまとめたものです。これをまとめるにあたって、市民各位の多大の御支援があったことに対して、感謝申し上げます。今後とも、文化財行政に対しての御協力、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

昭和58年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤 井 黎

目 次

序	
目 次	
例 言	
I. 事業報告	
1. 管理関係.....	1
2. 調査関係.....	5
II. 調査報告	
1. 南小泉遺跡.....	14
2. 泉崎浦遺跡.....	17
3. 西台畠遺跡.....	20
4. 柳生台畠遺跡.....	26
5. 仏像彫刻緊急実態調査略報III.....	27
6. 仙台市指定文化財候補物件調査報告I.....	35
III. 総 報.....	62

例 言

1. 本書は、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係・文化財調査係が昭和57年度に行なった文化財の調査、文化財保護思想の啓蒙・普及活動、文化財保護管理に関する各種事業についての年度報告書である。
2. 調査報告のうち埋蔵文化財関係は、昭和57年度に実施した発掘調査のうち独自に概報もしくは報告書にまとめるに至らなかった小規模な発掘調査4件の概報を掲載した。
3. 「仏像彫刻緊急実態調査略報III」については、仏像彫刻の実態調査終了後に本報告書を刊行する計画である。
4. 「仙台市指定文化財候補物件調査報告」は、仙台市文化財保護委員会委員の専門の先生方に調査いただいた調査報告であり、昭和57年度は建築部門を佐藤巧同委員会副委員長に、彫刻部門を故亀田孜同委員会委員に調査を依頼して報告をいただいたものである。
5. 本書の編集には文化財管理係渡辺洋一、文化財調査係佐藤隆・加藤正範があたったが、係員全員の協力をあおいた。
6. 調査報告の執筆にあたっては、II-1を加藤正範、II-2を佐藤隆、II-3を佐藤巧同、II-4を高橋勝也、II-5を渡辺洋一が担当した。

I. 事業報告

1. 管理関係

(1) 一般文化財

1) 文化財保護委員会

本年11月30日をもって第10期の仙台市文化財保護委員会委員の任期が満了となり、翌12月1日付で第11期仙台市文化財保護委員会が発足した。なお、現職の委員のうち、第10期をもって植物担当の木村有香委員、考古担当の後藤勝彦委員が勇退され、民俗担当の岩崎敏夫委員ほか5名の方々が仙台市文化財保護委員として新たに委嘱された。(名簿は彙報に掲載)

また、これに先立ち本年は8月4日に三原良吉委員(民俗担当)、12月5日に亀田孜委員が逝去された。

2) 文化財パンフレット

今年度は昨年に引きつき彫刻編の第2回として「仙台市の仏像彫刻II(菩薩部I)」として、在仙寺院に所蔵されている菩薩部像の紹介を行なった。

また第1集「仙台のあゆみと文化財」、第2集「埋もれた仙台の歴史」の再版を合せて行なった。

3) 説明板・標柱の設置

今年度は成覚寺山門・耕江遺跡・山田上ノ台遺跡(二基)・原町道知ベ石の説明板5基と、耕江遺跡・山田上ノ台遺跡(二基)・大年寺懇門・十三塚の標柱5基の設置を行なった。

4) 選標の設置

市制施行88周年記念事業の一環として由緒ある町名・通名の選標を次のとおり設置した。

東北電力日新寮角(花壇川前丁)・琵琶首新丁)、東北大学歯学部角(北六番丁・木町通)、八幡町四丁目エンドー前(江戸町・坊主町)、穀町保育園前(穀町・豊原町)

昭和52年以来の選標設置総数は34基を数える。

5) 文化財めぐり

仙台市内にある文化財の見学を通じて市民の文化財に対する認識を深め、文化財の保護思想の普及をはかるため、下記の3回(大人対象2回、小供対象1回)の文化財めぐりを実施した。

対象	大人(第1回)	子供	大人(第2回)
月日	昭57. 6. 13.(日)	昭57. 8. 20.(金)	昭57. 11. 7.(日)
コース	河原町・茂ヶ崎・向山方面	仙台城跡(植物園)	荒町・南鍛冶町方面
講師	吉岡一男 (宮城県立図書館奉仕課長)	渡辺洋一 成瀬茂 佐藤裕	逸見英夫 (郷土史家)

6) 文化財講座

下記により2回の文化財講座を実施した。

回	テー マ	講 師	H	時
6	キリスト教の歴史と文化	浜田直嗣（仙台市博物館等担当員）	昭57.11.13(日) 16時 25分	6:00 ~8:00PM
	概 説	佐藤 巧（仙台市文化財保護委員会副委員長）	昭58.3.12(日)	2:00 ~4:00PM
7	古墳墓の見方	仙台市の社寺建築 阿部和志（東北大学工学部助手）		3.19(日)
	仙台市の洋風建築	鶴賀謙一（ ）		3.26(日)

7) 文化財分布調査

昨年に引きつづいて仙台市内にある文化財の基本台帳整備のための確認調査を実施した。

8) 仏像彫刻緊急実態調査

調査を始めて三年目に当る本年は、輪王寺以下6件154躯の調査を実施した。

9) 近世社寺建築調査

文化庁建築物課の指導により、在仙の近世（桃山～江戸時代：1573～1867）建立の社寺建築65件の調査を実施した。

10) 原始古代村建設事業

前期田石器から縄文～奈良・平安までの大複合遺跡である山上上ノ台遺跡を中心に構想されている原始古代村の建設を進めるため、他の遺跡との関係や街づくりとのつながりにも普及した基本構造案を作成した。

11) 指定文化財の維持管理

昭和57年8月に遠見塚古墳の除草掃除と跡奥国分尼寺跡の樹木剪定、8・9月に各1回陸奥国分寺跡の樹木消毒を行なった。

12) 仙台市文化財分布図の改訂

昭和47年度から実施して来た遺跡の範囲確認調査等の結果を総合し、昭和49年に「仙台の文化財分布図」(1/10,000・1/25,000の二種)と「仙台の文化財分布図収録物件一覧表」を作成した。さらにその後の調査の成果を追加し4回にわたって補正し、精度の高い地図の作成を期して来た。

しかし、その後の調査の実施件数の増加等で、現在の地図と一覧表が現状にそぐわない状況になって来た。よって本年度、地図と一覧表の大幅な改訂を実施した。

13) 文化財防災施設保守点検

例年のとおり1月26日の文化財防災デーを中心として、前後に事前点検（昭58.1.19・20・21）と防災訓練（昭58.1.26）が行なわれた。

2) 補助事業

(1) 県費補助事業

1) 指定文化財管理事業

国指定文化財の大崎八幡神社・仙台東照宮・陸奥国分寺薬師堂の三件について、防災施設保守点検、小修理といった維持管理に対して補助が行なわれた。

2) 無形文化財保存事業

宮城県指定無形文化財の館山甲午氏(平曲技術保持者)、甲田綏郎(精好仙台平技術保持者)、及び無形民俗文化財の大崎八幡神社能神楽保存会の二人・団体に技術保持に対する補助が行なわれた。

3) 落合観音堂屋根葺替事業

宮城県指定有形文化財落合観音堂の脇龕屋根が老朽化したため、総工費6,300千円(内訳:宮城県補助金3,150千円、仙台市補助金1,575千円、所有者負担金1,575千円)をもって44年ぶりに屋根の全面代替を実施した。

(2) 国庫補助事業

1) 史跡陸奥国分寺跡土地買上事業

目的:史跡陸奥国分寺跡の保存保護を図るため、史跡指定地の公有化を図る。

土地公有化の実績:土地の公有化は昭和43年度から着手し、昭和56年度末までに杜寺所有地を中心とする主要堂塔跡175,22.34m²の公有化を終了している。

今 年 度 の 事 業:今年度は僧房跡西隣と南大門跡南側・塔院前庭部に位置している民有地1,330.75m²の公有化を実施した。

今後の事業予定:昭和58年度は、史跡指定地内全域の公有化を図ることにあるが、現実には諸条件がからむため困難が多く、現状変更に伴う買い取り請求の都度対応していくなど段階的にすすめざるを得ない。

2) 史跡岩切城跡保存実施事業

岩切城跡の史跡指定:昭和57年8月23日付文部省告示第103号により史跡の指定をうけた。

岩切城跡は仙台市岩切から利府町神谷沢の地に跨り、南北約400m、東西約500mの天險の地を地域とする。

保存施設事業:史跡指定を受けて実施される事業で、今年度は史跡境界に境界標を埋設する工事を実施した。

3) 史跡遠見塚古墳環境整備事業

今年度の環境整備事業総予算は800万円で、事業内容としては、環境整備に伴う予備調査(最終調査)・古墳主体部を中心とした発掘調査・追加指定された土地境界へフェンスをまわす工事、

発掘調査箇所の埋め戻しと七留を兼ねた主体部北側への土盛り工事である。

4) 郡山遺跡他の発掘調査事業

郡山遺跡緊急範囲確認調査

本年度は、昭和55年度から開始された緊急範囲確認調査5ヶ年計画の第3年次にあたり、推定方四町官衙域内の中央や、北寄りの地区を2,100m²にわたって、第24次調査として実施した。また、推定方二町寺域の東外側地区の遺構確認調査を410m²にわたって、第34次調査として実施した。調査は4月17日に開始し、12月24日に終了した。調査面積は2,510m²である。

第24次調査は推定方四町官衙の中心施設を明らかにすべく実施されたものであったが、この方四町官衙より古い時期に造営されたと考えられる官衙の遺構群を中心に、古墳時代中期から中世にわたる数多くの遺構・遺物が発見された。この古い官衙を構成するとみられる遺構群は掘立柱建物跡や櫛木列・一本柱列などの区画施設であるが、造営の基準方向が真北線から30°前後東にずれており、真北線を基準方向とする方四町官衙の遺構群と明らかに区別される。遺構の重複関係から官衙が新・旧2つの時期に分けられることは明らかであるが、各々の出土遺物の観察によれば時間差がありみられず、短期間の中で官衙の大規模な改変を行っていることが考えられる。また、在地の土器に混じって、関東・畿内地方と類似の土器類が多く出土し、特に畿内系の暗文土器は搬入品とみられ、官衙・寺院の造営にあたっては、関東・畿内の強い影響を受けていたことが考えられる。古い官衙の造営年代は7世紀後半代、新しい官衙（推定方四町官衙）は7世紀末から8世紀初頭とみられ、56年度の調査で明らかになった寺跡は、基準方向や出土遺物などからみて、新しい段階の官衙との同時性が考えられる。

第34次調査は寺域東外側の遺構確認を目的に実施されたものであるが、寺域内で実施された第15次調査と同様、古代の遺構検出面が重層を成し、下層遺構は推定寺域東外にまで広がっており、上層遺構も溝跡の方向からみて、古い段階の官衙に伴うことも考えられる。

仙台平野の遺跡群発掘調査

仙台平野に分布する遺跡群にかかる個人の小規模な開発（個人住宅の建築等）に伴う発掘調査を目的とした第2年次にあたる。今年度は、提出された発掘届の中から、砂押古墳、史跡陥奥国分寺跡（2件）、郡山遺跡（10件）の3遺跡13件について、発掘調査を実施した。発掘調査は4月から12月にかけて実施し、調査面積は、630m²であった。調査の結果、砂押古墳は埴輪を伴っており、前方後円墳の可能性があること、史跡陥奥国分寺跡では昭和34年の調査で検出されていた版築と寺院西城を区画する施設に伴うと思われる溝が今回の調査区でも発見された。郡山遺跡の調査は、「郡山遺跡緊急範囲確認調査」と併行して進め、今後遺跡の範囲・性格を考えるために、大きく寄与することができた。本事業は、年々増加しつつある遺跡の発掘届に対し、行政的に対処していくために貴重な事業であると言える。

2. 調査関係

(昭和57年度) 埋蔵文化財発掘調査事業概要

昭和57年度の発掘調査事業は、公共事業関連では高速鉄道南北線建設工事に伴う①下ノ内、②泉崎前、③泉崎浦、④中谷地、⑤鳥居原の各遺跡の調査、⑥広南病院建設工事に伴う西台畠遺跡の調査、⑦大型体育館建設工事に伴う山口遺跡の調査、⑧青葉学園建設工事に伴う南小泉遺跡の調査、⑨都市計画街路川内～南小泉線の建設工事に伴う南小泉遺跡の調査がある。

民間開発事業（個人開発を含む）では、⑩燕沢、⑪鴻ノ巣、⑫中田・畠中、⑬南小泉、⑭下ノ内浦の各遺跡の調査がある。

国庫補助事業の調査としては、⑮郡山遺跡の緊急範囲確認調査（5ヶ年計画の3年次）⑯遠見塚古墳の環境整備事業のための発掘調査、⑰仙台平野に分布する遺跡内の小規模開発（個人住宅の建設等）に関する調査があり、それぞれに調査成果をあげることができた。以下、それぞれの概略について述べる。

①下の内遺跡では、縄文時代後期の複式炉と埋設土器を伴う竪穴住居跡、奈良～平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出。

②泉崎前遺跡、③泉崎浦遺跡、④中谷地遺跡、⑤鳥居原遺跡では、平安時代頃と考えられる水田の畦畔を検出。⑥泉崎浦遺跡については近世墓をも検出。

⑥西台畠遺跡では、10世紀以前の広瀬川の河道を考えるものを探出。弥生時代の遺構を想定したが検出されず、縄文土器片、上師器片を若干出土。

⑦山口遺跡では、縄文時代早期末、後期前葉、弥生時代の各遺物包含層、奈良～平安時代の住居跡と溝状遺構、平安～中世の水田跡をそれぞれ検出。

⑧南小泉遺跡-1では、平安時代の井戸跡、土壤、溝跡を検出。

⑨南小泉遺跡-2では、平安時代の竪穴住居跡2棟、溝多数、近世の井戸1基を検出。

⑩燕沢遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡15棟、掘立柱建物跡、土壤、溝跡を検出。特に平安時代の住居跡と掘立柱建物跡には規則性がみられる。仙台市内では初めての漆紙文書が出土。

⑪鴻ノ巣遺跡では、古墳時代の周溝墓、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、土壤を検出。中世陶器、三筋瓦、舟形木製品を出土。

⑫中田・畠中遺跡では、古墳～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土壤を検出。四郎丸、袋原地区の発掘調査は今回が、初めてであった。

⑬南小泉遺跡-3では、古墳時代の竪穴住居跡5棟、溝跡、土壤を検出。土師器（南小泉式他）、弥生土器（折形圓式他）を出土。

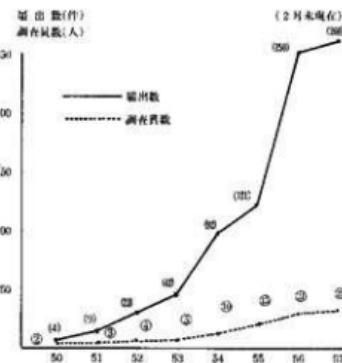
⑭下ノ内浦遺跡では、奈良～平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡を検出。縄文土器片も出

土。今回の調査により、発見された遺跡である。

⑮郡山遺跡、⑯遠見城古墳、⑰仙台平野の遺跡群についての概要は、前述の国庫補助事業の項目を参照。

以上のように、発掘調査の対象となった16遺跡は、我々に大きな成果をもたらしてくれました。その一方で、別表のように、発掘届の提出件数が増え続けています。できるだけ先人の残してくれた文化財を守っていこうとする考え方で、これらの届に対処し、市民の皆さんの協力を得て、住宅建設等の際には地下に眠る遺跡を破壊しないように行政指導（盛土、設計変更等）を実施してきました。

発掘届出件数と調査員数の推移



昭和57年度発掘調査の概略

No.	遺跡名	時代	種類	対象面積(m ²)	調査面積(m ²)	調査期間	担当課	報告書	備考
①	下ノ内	縄文～平安	墓葬跡	3,800	2,200	5%～%	准原、准辺、准木		公共事業
②	泉崎前	弥生、平安	水田跡	1,700	600	5%～%	古墳		
③	泉崎後	縄文～平安、江戸	墓葬、水田跡	2,200	1,200	5%～%	古墳、回中	56集	
④	中谷地	平安、中世	水田跡	6,000	1,800	5%～%	土浜、高橋		
⑤	鳥居原	平安以前	水田跡	3,300	2,200	5%～5%～%	森野、荒井		
⑥	西古墳	縄文、古墳以降		2,600	2,200	5%～%	佐藤(半)、柳沢	57集	
⑦	山口	糞化物生、奈良・中世	墓葬、水田跡	20,000	8,500	5%～%	田中、主浜		
⑧	南小泉～1	平安	墓葬跡	540	540	5%～%	政治、佐藤(総)	55集	
⑨	南小泉～2	平安	墓葬跡	1,000	550	5%～%	新城、工藤	52集	
⑩	燕沢	縄文～平安	官窓？堀跡跡	16,000	3,800	5%～%	渡部、佐藤(総)		民間開発地
⑪	岩切沢～奥	古墳、平安、中世	墓葬跡	2,520	993	5%～%	青沼、長島	44集	
⑫	中田塙中	古墳、平安	墓葬跡	1,230	330	5%～%	青沼、長島	53集	
⑬	南小泉～3	古墳中期	墓葬跡	205	205	5%～%	平野、佐藤(隠)、加藤	60集	
⑭	下ノ内浦	奈良～平安	墓葬跡	540	270	5%～%	佐藤(隠)、柳沢、工藤	59集	
⑮	郡山	吉墳末期～奈良	官街、寺院跡	—	2,510	5%～%	木村、成川、青沼、余森	46集	国庫補助
⑯	遠見冢古墳	古墳	古墳	260	260	5%～%	越野、工藤	48集	
⑰	仙台平野の遺跡群	—	—	—	—	5%～%	佐藤(隠)、加藤、余森	47集	

昭和57年度現状変更届出件数

昭和58年2月28日現在

整理番号	遺跡名	所 在 地	原 因	開発面積	処 置	最終の性格
1	史跡認定免許跡	木ノ下二丁目77-2	標柱設置	1 m ²	立会い	寺院跡
2	—	—	79-32	住宅解体系統	59.41 m ²	発掘調査
3	—	—	—	—	52.167 m ²	—
4	—	木ノ下二丁目7-47	物置及び自転車置場新設改修並びに給排水管改良	73.5 m ²	立会い	—
5	—	木ノ下二丁目3,三丁目	上水道配水管新設	365 m ²	発掘調査	—
6	—	木ノ下三丁目10,11,14,15番	標柱新設	573 m ²	—	—

昭和57年度発掘届(通知)一覧

昭和58年2月28日現在

登録番号	地名	所在場所	原書	開発面積	施設	主な性質
1 C-522	石 宮 廟	岩切字新宮前11-22	住宅新築	145	文 会 い	墓葬(中世)
2 C-224	鶴 呂	I 桜並木路地一丁目102-3	*	89	*	墓葬跡(平安時代)
3 C-102	南 小 川	道見字第二丁目125-10,125-19	*	80	*	墓葬跡(出生-平安時代)
4 C-136	東	生三丁目1-6	*	110	*	墓葬跡(出生-平安時代)
5 C-420	國 分尼寺跡	古城町34-12丸	日本瓦陶水質衛設	22	*	寺院跡(平安時代)
6 C-201	古 城	川内西端無名地	住宅新築	41	*	城跡(南北朝)
7 C-109	人 村	茂庭字人来田山142-13	住宅新築	81	*	墓葬跡(绳文-出生時代)
8 C-223	和 田 郡	生田字星屋6	住宅増築	26	*	墓葬跡(中世)
9 C-102	南 小 川	古城二丁目3-2	住宅新築	55	*	墓葬跡(出生-平安時代)
10 C-178	竹 ノ 内	生平字竹ノ内441	*	97	*	集落跡(平安時代?)
11 C-102	南 小 川	道見字第一丁目322-40	住宅新築	62	*	墓葬跡(出生-平安時代)
12 C-102	南 小 川	南小字吉伊御塚52-8	住宅新築	109	*	墓葬跡(出生-平安時代)
13 C-104	酒 許	鶴ヶ谷字東賀野2番2	住宅新築	104	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
14 C-507	今 皇 城	今泉字久保田55-3,35-9	*	180	調 研	城跡(中世)
15 C-141	丹 關 武	鶴ヶ谷半音町8-10	*	62	立 会 い	墓葬跡(绳文-平安時代)
16 C-141	昌 清 許	鶴ヶ谷半音町84-5	*	60	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
17 C-107	森	岩切字山崎186-10	住宅新築	12	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
18 C-102	南 小 川	道見字第二丁目32-3	*	24	*	墓葬跡(出生-平安時代)
19 C-102	南 小 川	古城三丁目12-3	住宅新築	37	*	墓葬跡(出生-平安時代)
20 C-202	米 岐 游	高武字東京東一巷85-8	住宅新築	199	*	集落跡(绳文-古墳-平安-近世)
21 C-102	南 小 川	道見字第二丁目295-5	住宅増築	87	*	墓葬跡(出生-平安時代)
22 C-224	鶴 呂	I 福地字船橋一弄86-8	墓原増築	15	*	墓葬跡(平安時代)
23 C-108	人 村	茂庭字人来田山142-19	住宅新築	62	*	墓葬跡(绳文-出生時代)
24 C-104	郡 山	郡山三丁目112-2	住宅増築	47	*	墓葬跡(古墳-奈良時代)
25 C-102	南 小 川	古城三丁目1-19	*	25	*	墓葬跡(出生-平安時代)
26 C-102	南 小 川	道見字181番15-25	住宅新築	166	*	墓葬跡(出生-平安時代)
27 C-224	鶴 呂	I 福地字船橋一弄23-1	住宅増築	18	*	墓葬跡(平安時代)
28 C-426	鳴門町諫岐島北	鳴門町諫岐島北	手造土垣塀	37	*	網跡(平安時代)
29 C-224	鶴 呂	I 福地字船橋一弄22-14	住宅増築	8	*	墓葬跡(平安時代)
30 C-109	人 村	茂庭字人来田山142-16	住宅新築	64	*	墓葬跡(绳文-出生時代)
31 C-131	昌 清 許	鶴ヶ谷字西高浜34-11	住宅新築	39	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
32 C-104	郡 山	郡山三丁目32番地の3	住宅増築	20	*	墓葬跡(古墳-奈良時代)
33 C-102	南 小 川	道見字第一丁目286-3	住宅新築	70	*	墓葬跡(出生-平安時代)
34 C-131	昌 清 許	鶴ヶ谷字西高浜43-20他	谷原建塀	529	瓦 砖 有	瓦格跡(绳文-平安時代)
35 C-107	上 手 内 鹿 舞	I 手内一丁目22-23	物置及び上り屋の塀等	51	立 会 い	塀跡(平安時代)
36 C-126	田 子	川字手内23-1	住宅建塀	114	*	墓葬跡(平安時代)
37 C-421	柏 古 勢 來 里	鹿町字手下1-18-4	*	72	*	奈良-平安行政区画跡
38 C-133	山 口	高沢字平山660-8	美同住宅建築	118	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
39 C-125	新 稲	鹿町字新稻12-6	住宅建塀	102	*	墓葬跡(绳文-平安時代)
40 C-109	人 村	茂庭字人来田山11-44	*	87	*	墓葬跡(出生-平安時代)
41 C-223	福 田	福地町二丁目1166-2	*	87	*	墓葬跡(平安時代)
42 C-507	今 皇 城	今泉字久保田89-18	*	67	*	城跡(中世)
43 C-223	鶴 田	福地町二丁目1093-3	*	100	*	墓葬跡(平安時代)
44 C-404	小 田 鶴 田	小田鶴田二丁目35-3	住宅増築	28	*	網跡(平安時代)
45 C-132	上 野 山	鶴取字上野山地内	道路改良工事	340	試 施	墓葬跡(绳文時代)
46 C-102	南 小 川	南小泉字道見摩西70-11	住宅建塀	93	立 会 い	墓葬跡(出生-平安時代)

登録番号	遺跡名	所在地	城郭	開発面積	地質	遺跡の性格
47	大野田古墳群	大野田市松山14-3	円筒形周溝墓	205	試 墓 清	古墳(古墳時代)
48	C-223 郡 田 口	福岡町二丁目1093-2	住宅建築	58	立 会 い	集落跡(平安時代)
49	C-156 北 江 戸	六丁目半埋蔵62-26	" "	92	"	集落跡(平安時代・中世・江戸)
50	C-434 芦谷村添麻野	堤町一丁目101-42	" "	42	"	聚落跡(平安時代)
51	C-432 犬鳴村添麻野	堤町一丁目101-72	" "	82	"	聚落跡(平安時代)
52	C-501 鹿 古 城	川内地区施設地	" "	40	"	城郭跡(南北朝)
53	C-900 花 ケ 鶴 城	長崎	下水管布設	50	"	城跡(中世)
54	C-102 霧 小 鳥	鹿児島二丁目33-5	住宅建築	81	"	聚落跡(浴生～平安時代)
55	C-507 分 里 城	今屋字久保田97-4	" "	32	"	城跡(中世)
56	C-501 犬 古 城	川内地区施設地	軽体新築	36	"	城郭跡(南北朝)
57	C-175 西 安	鹿少一丁目4-7	共同住宅地帯	198	"	聚落跡(奈良・平安時代)
58	C-174 高 郡 B	小郡字寺前26-3	仓库及び事務所建物	161	"	聚落跡(奈良・平安時代・中世)
59	C-223 須 山 司	横田町二丁目1090-2	住宅建築	128	"	聚落跡(平安時代)
60	C-224 須 他 I	福富字船場1-68-2	" "	150	"	聚落跡(平安時代)
61	C-104 郡 山	郡山三丁目31-35	軽体新築	49	試	試 墓 清(山城東～奈良時代)
62	C-104 郡 山	郡山六丁目227	住宅建築	75	立 会 い	聚落跡(山城東～奈良時代)
63	C-142 鹿 山 高 旗	八木本村岐町2-95	" "	38	"	城跡跡(樹文中期)
64	C-102 鹿 山 泉	山崎三丁目17-8	住宅建築	74	"	聚落跡(浴生～平安時代)
65	C-197 六 反 釜	大野田字五反山1-2	住宅建築	99	"	聚落跡(鏡文～平安時代・江戸時代)
66	C-197 六 反 釜	大野田字五反山4番20番	社宅施設	4,200	多 施 施	聚落跡(鏡文～平安時代・江戸時代)
67	C- 81 町 富 庫	堤町二丁目80,82-1,82-2	住宅建築	224	立 会 い	聚落跡(平安時代)
68	C-104 郡 山	郡山三丁目3-18	軽体新築	33	"	聚落跡(奈良～奈良時代)
69	C-522 佐 田 里 敷	瀬户字二本木127-8	合掌建築	331	試 測 清	試 墓 清(中世)
70	C-501 牧 古 城	川内地区施設地	住宅建築	39	立 会 い	城郭跡(南北朝～江戸)
71	C-102 鹿 山 采	南小字寺伊御原52-9	施設地帯	417	試 測 清	聚落跡(奈良～平安時代)
72	C-102 鹿 山 采	古崎二丁目311	東洋少年荒廃地	26,334	試 測 清	聚落跡(外生～平安時代)
73	C-104 郡 山	郡山三丁目14-31	住宅建築	15	立 会 い	聚落跡(古墳～奈良時代)
74	C-506 冲 野 城	沖野字中田畠35	古墳及び住居跡	227	試 測 清	城跡(中世)
75	C-197 六 反 田	東沢西二丁目27-1,20-1,20-2	古墳場施設	200	立 会 い	聚落跡(鏡文～平安・江戸時代)
76	C-305 北 日 城	郡山四丁目5-2	下水道本管埋設	196	"	城跡(中世)
77	C-501 牧 古 城	川内地区施設地	住宅建築	41	"	城郭跡(南北朝～江戸)
78	C-225 鹿 山 口	福富字船場2	" "	102	"	聚落跡(平安時代)
79	C-233 山 口	高尾字山1464	" "	74	"	聚落跡(鏡文～平安時代)
80	C-135 鹿 山 木 城	21号半周ノ集45-6,46-4	" "	65	"	聚落跡(古墳～中世)
81	C-306 北 日 城	郡山字船ノ集53-6	" "	55	"	城跡(中世)
82	C-136 木 城	西中田七丁目3-8	" "	61	"	聚落跡(外生～平安時代)
83	C-501 仙 古 城	川内地区施設地	軽体新築	42	"	城郭跡(南北朝～江戸)
84	C-197 六 反 田	大野田字六反田22-3	ガス管道設工事	88	"	聚落跡(鏡文～平安・江戸時代)
85	C-197 六 反 田	大野田柴原30-5	住宅建築	65	"	聚落跡(鏡文～平安・江戸時代)
86	C-108 上 野	高尾字上野127-6	" "	54	"	聚落跡(鏡文・奈良・平安時代)
87	C-223 鹿 田 町	福田町二丁目1112	" "	92	"	聚落跡(平安時代)
88	C-230 鹿 田 平	鈴取字御半	借立高塀建設	20,000 <small>(2000年) 北側高塀</small>	聚落跡(鏡文～平安時代)	聚落跡(中世)
89	C-514 鹿 分 里 施	柳ヶ原5	瓦善店倉庫建築	237	立 会 い	城跡(平安時代)
90	C-134 犬 鳴 本 町	古の原二丁目1-1	給水管引き込み	134	"	聚落跡(平安時代)
91	C-136 木 城	西中田七丁目3-8地内	住宅建築	75	"	聚落跡(外生～平安時代)
92	C-136 木 城	西中田七丁目3-8地内	" "	64	"	聚落跡(外生～平安時代)
93	C-136 木 城	西中田七丁目3-8地内	" "	76	"	聚落跡(外生～平安時代)

登録番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	施設	遺跡の性質
94	C-104 郡 山	郡山六丁目3-33	住宅地盤	101	試掘	集落跡(古墳時代～奈良時代)
95	C-223 館 田 町	福岡町二丁目1258	住宅地盤	72	立会い	聚落跡(平安時代)
96	C-233 山 口	豊岡市山口35地	#	99	#	聚落跡(飛鳥～平安時代)
97	C-234 明 月 蔵	六丁目字使用面1	住宅建築	346	試掘	集落跡(平安時代)
98	C-301 富沢水田遺構	長野市宇都原33-12	住宅建築	107	立会い	聚落跡(平安時代)
99	C-104 郡 山	郡山五丁目150-10地	共同住宅建築	94	試掘	聚落跡(古墳時代～奈良時代)
100	C-271 稲 場	沖野字新神田84-4地	水道管敷設工事	30	立会い	集落跡(飛鳥～平安時代)
101	C-183 牛 小 吉	御生一丁目2-12	住宅地盤	10	#	聚落跡(飛鳥～平安時代)
102	C-510 前 日 城	照香町37-3	社殿地盤	446	試掘	館跡(中世)
103	C-215 砂 沢	沖野字砂沢	水道管敷設	48	立会い	聚落跡(古墳～平安時代)
104	C-166 北 垂 敷	六丁目字平坂山鹿屋塚敷5-1	住宅建築	75	#	聚落跡(平安・中世・江戸時代)
105	C-136 葉 里	中田七丁目2-9	#	64	#	集落跡(古墳～平安時代)
106	C-300 下 内 通	富沢字下ノ内通12	金庫・灯油タンク建設	577	調査	聚落跡(奈良～平安時代)
107	C-108 野 町	野町新町40-6	住宅地盤	101	立会い	聚落跡(飛鳥・奈良・平安時代)
108	C-233 山 口	豊岡市山牧4	#	77	#	聚落跡(古墳～平安時代)
109	C-102 南 小 久	南小泉町4丁目99-1	#	63	#	聚落跡(奈良～平安時代)
110	C-109 人 木	茂庭人木田山38-77	#	81	#	聚落跡(飛鳥～奈良時代)
111	C-104 郡 山	八木松二丁目10-19	住宅建築	9	#	聚落跡(古墳～奈良時代)
112	C-108 南 小 早	延見原一丁目18-36	倉庫地盤	168	試掘	集落跡(奈良～古墳時代)
113	C-215 伊 井	沖野字伊井33-3	住宅建築	95	立会い	聚落跡(古墳～平安時代)
114	C-300 下 内 通	富沢字下ノ内通29-1	貯販住宅建築	152	試掘	集落跡(奈良～平安時代)
115	C-102 南 小 景	南小泉町4丁目82-7	住宅地盤	114	立会い	聚落跡(奈良～平安時代)
116	C-193 山 田 上 / 在	山田字上北野4-1の内	事務所・作業所地盤	108	#	集落跡(須磨田石野・後醍醐天皇・元亨)
117	C-204 佐 河 野	中田字前沖39-2-3,4	住宅建築	159	#	聚落跡(奈良～平安時代)
118	C-501 佐 々 城	川内遺跡無地	移転新築	41	#	城跡(南北朝・江戸)
119	C-501 佐 々 城	川内遺跡無地	#	43	#	城跡(南北朝・江戸)
120	C-211 牛 田 加 中	徒歩字猪籠4-3	宅地造成	1,097	事前調査	集落跡(奈良～平安時代)
121	C-199 新 田	長町南二丁目68	住宅新築	99	立会い	集落跡(奈良～平安時代)
122	C-403 五 本 松 窓 神	台原四丁目32-7	移転新築	147	#	廟跡(平安時代)
123	C-423 仙台東駅跡埋蔵	瀬町字上土山19-10	住宅地盤	56	#	奈良・平安期の行政区画(平安時代)
124	C-108 上 野	富田字上野中	市道改良	750	#	聚落跡(飛鳥・奈良・平安時代)
125	C-125 斎 町	西延字斎町20-1	地盤合築	32	試掘	鬼岳跡(飛鳥・古墳・平安時代)
126	C-404 金 田 駅 基	小笠島三丁目3-58	共同住宅解体新築	125	立会い	廟跡(平安時代)
127	C-252 黄 植 通	南小泉一丁目13-12	住宅新築	77	#	聚落跡(平安後期)
128	C-102 南 小 畠	延見原一丁目233-5	#	105	#	墓跡(奈良～平安時代)
129	C-109 人 木	茂庭人木田山42-17	#	71	#	集落跡(飛鳥～奈良時代)
130	C-202 久 立 道	宮沢字中田地8,9,11-1-3	貯蔵所地盤	144	#	聚落跡(飛鳥・古墳・平安・若狭)
131	C-501 仙 台 城	川内遺跡無地	住宅建築	40	#	城跡(南北朝・江戸)
132	C-135 佐 / 乗	岩井字舟ノ堀33-15	#	131	#	聚落跡(古墳～中世)
133	C-433 枝 江	枝江6-17	事務所兼倉庫新築	44	#	廟跡(平安時代)
134	C-038 变岩山横穴群	越路14-23	住宅地盤	87	#	古墳(山块時代末)
135	C-511 佐 木 城	山城二丁目70	国営公務員宿舎建設	1,500	#	館跡(中世)
136	C-202 木 岐 渡	富岡字中野8,9,11-1-3	大同住宅地盤	282	#	聚落跡(飛鳥・古墳・平安・近世)
137	C-254 木 加 敷	六丁目本郷東4-4地	倉庫・事務所地盤	313	試掘	聚落跡(平安時代)
138	C-140 安 久	西中田七丁目25-8	住宅地盤	66	立会い	聚落跡(奈良～平安時代)
139	C-505 北 日 城	郡山字北丹老地37-4	ガソリンスタンド改築	214	試掘	鐵跡(中世)
140	C-240 京 ヤ 丘	萩ヶ丘9-1	学校建設	1,172	立会い	聚落跡(飛鳥・奈良・平安時代)

番号	遺跡名	所在地	原 因	開発年数	施設	遺跡の性格
141	C-301 富士水田遺構	富士町地区豊富地区内	農耕破壊	1,367	半周廻柵	豪落跡(平安時代)
142	C-514 郡 分 離	福山地区内	福村街路建設	29	立・全・い	築跡(半世)
143	C-102 南 小 川	瀬見川二丁目505-1	住宅建築	114	#	豪落跡(奈良~平安時代)
144	C-226 田 手	田子字三段	(工場)事務所施設	939	試 演 游	豪落跡(学問時代)
145	C-141 富 露 沢	高木谷字牛脇沢26-12	住宅建築	66	立・全・い	豪落跡(绳文~平安時代)
146	C-102 南 小 川	瀬見川一丁目7-35	#	108	#	豪落跡(奈良~平安時代)
147	C-104 郡 山	郡山二丁目14-12	#	70	試 演 游	豪落跡(吉備木~平安時代)
148	C-419 鹿 岩 四分寺	木下二丁目20-2,18-1	#	99	立・全・い	寺院跡(平安時代)
149	C-104 郡 山	八手松二丁目36-3	#	121	#	豪落跡(六朝末~平安時代)
150	C-240 佐 々 代	代々14-5,14-26	#	150	#	豪落跡(漢文~奈良~平安時代)
151	C-505 北 日 城	郡山大丁目地内	道路拡張工事	756	#	築跡(半世)
152	C-208 後 草	中田字南寺34-2	宅地造成	1,620	半周廻柵	豪落跡(奈良~平安時代)
153	C-222 和 田 郡 郡	後生天尾松5-2	#	2,673	試 演 游	部屋(半世)
154	C-234 叫 屋	六ヶ岳字星城南9	住宅建築	90	立・全・い	豪落跡(平安時代)
155	C-104 郡 山	郡山市丁目3-13	住宅建築	90	#	豪落跡(古墳~奈良時代)
156	C-141 高 備 沢	高木字牛脇沢30-7	店舗付住宅地帯	82	#	豪落跡(漢文~平安時代)
157	C-026 爰 善 斧	向山町丁目20-17	住宅建築	34	#	古墳(古跡時代)
158	C-131 北 施	山西字北施6-11	事務所施設	79	#	豪落跡(古跡~奈良時代)
159	C-110 阿 黒 金	山西字京安1-41,2-1	宅地造成	1,737	試 演	豪落跡(漢文~六朝~平安時代)
160	C-301 仙古城 ¹ の丸跡	郡内	史料古跡研究施設	236	半周廻柵	城跡跡(南北朝~江戸)
161	C-028 隅 河 庫	中田町字御神21,34-1,35	宅地造成	1,983	#	豪落跡(奈良~平安時代)
162	C-228 隅 / 湖	郡山市大正5-4	春暉改善	136	立・全・い	豪落跡(古墳~奈良~平安時代)
163	C-102 南 小 木	瀬見川二丁目301-2	解体新築	94	#	豪落跡(住居~平安時代)
164	C-223 佐 田	町 榎町二丁目22-11	住宅建築	17	#	豪落跡(平安時代)
165	C-223 佐 田	町 榎町二丁目8-3	住宅建築	75	#	豪落跡(平安時代)
166	C-202 京 岐 游	高市字京岐津2-1	春香街跡	325	半周廻柵	豪落跡(汉文~古墳~平安~近世)
167	C-108 七 野	鶴敷新田町	馬久木水道沿置	89	試 演 游	豪落跡(汉文~奈良~平安時代)
168	C-225 隅 游 I	隅里半蔵寺	#	88	#	豪落跡(平安時代)
169	C-102 南 小 木	南小字半蔵寺501-9	住宅建築	141	立・全・い	豪落跡(奈良~平安時代)
170	C-102 南 小 木	瀬見川二丁目507-8,507-11	住宅建築	61	#	豪落跡(住居~平安時代)
171	C-102 南 小 木	瀬見川一丁目50	#	159	#	豪落跡(住居~平安時代)
172	C-104 郡 山	郡山二丁目117-2	共同住宅建築	159	半周廻柵	豪落跡(古墳~奈良~平安時代)
173	C-102 南 小 木	瀬見川一丁目44-17	住宅新築	73	立・全・い	豪落跡(住居~平安時代)
174	C-403 木 松 寺	内ノ原3丁目5-40	解体新築	109	#	空跡(平安時代)
175	C-102 南 小 木	古城三丁目114	瓦ビル建築	176	半周廻柵	豪落跡(奈良~平安時代)
176	C-208 隅 瀬	瀬崎一丁目18-21	東海新築	22	立・全・い	豪落跡(古墳~古跡~平安~近世)
177	C-104 郡 山	郡山一丁目11-3	解体新築	55	解体570	豪落跡(古墳來~奈良時代)
178	C-223 佐 田	町 榎町二丁目1225-1	住宅建築	69	立・全・い	豪落跡(平安時代)
179	C-159 富 沢 上 / 下	西多賀二丁目317-21,22	#	83	#	豪落跡(汉文~平安時代)
180	C-226 田 手	南下字三段69-2	#	116	#	豪落跡(平安時代)
181	C-205 久 / 上	郡上字久ノ上33-6	#	70	#	豪落跡(古墳~奈良~平安時代)
182	C-108 人 田	深庭字人田川山15-15	#	54	#	豪落跡(汉文~奈良時代)
183	C-104 郡 山	郡山二丁目10-9	解体新築	39	調査 游	豪落跡(古墳来~奈良時代)
184	C-104 郡 山	郡山四丁目13-4	地盤監査の場跡	29	#	豪落跡(古墳来~奈良時代)
185	C-300 下 / 内	長町南四丁目29	住宅建築	57	立・全・い	豪落跡(古墳来~奈良時代)
186	C-507 今 林	今家字久保通97-4	#	82	#	豪落跡(半世)
187	C-507 今 林	古城二丁目3-1	作業倉庫地帯	312	#	豪跡(今世)

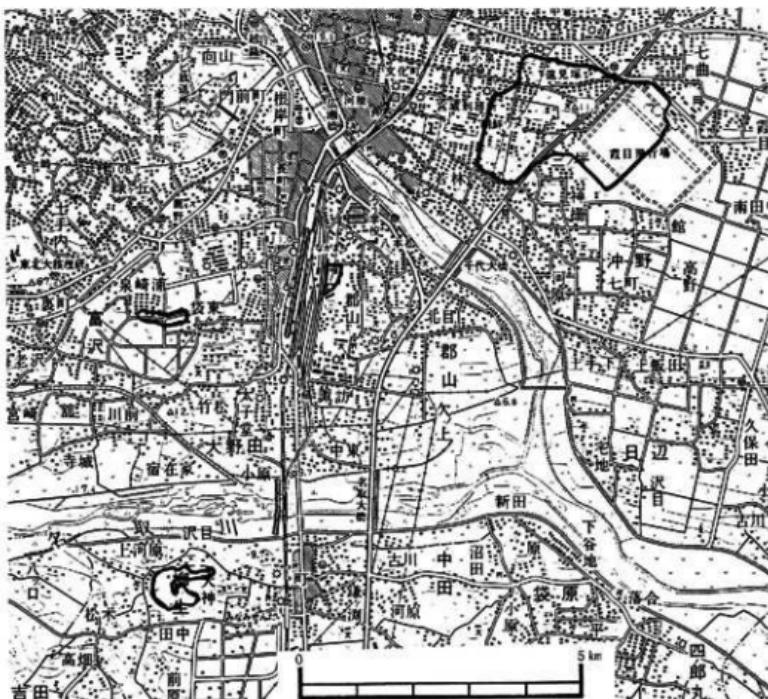
番号	通 路 名	所 在 地	準 因	開発面積	路 景	政 治 的 性 質
185	C-188 山 11	高次子山各地1285平	住宅地盤	90	立 会 い	集落跡(編文～平安時代)
186	C-102 雨 小 京	並見原二丁目309～24	住宅地盤	26	#	集落跡(弥生～平安時代)
190	C-304 風 ル 風 城	長町原2丁目46～146	#	24	#	城跡(中世)
191	C-300 F ノ 内 河	高次子下ノ内道15	住宅地盤	86	#	集落跡(奈良～平安時代)
192	C-511 畜 林 墓	古城二丁目3～1	墓古墳跡	291	#	鐵跡(中世)
193	C-412 安樂寺下ノ内道	安樂寺下ノ内道15～18	須賀学校中層複合施設	175	#	鐵跡(平安時代)
194	C-104 郡 山	郡山五丁目145～1	住宅地盤	103	異 有 游	集落跡(古墳末～奈良時代)
195	C-104 郡 山	郡山一丁目16～17	住宅地盤	75	武 亂	集落跡(古墳末～奈良時代)
196	C-223 風 川 町	仙田原一丁目11～12	住宅地盤	124	立 会 い	集落跡(平安時代)
197	C-188 午 小 有	蓬生一丁目4～4	笠置生地施設	158	#	集落跡(奈良～平安時代)
198	C-047 吉利松町御所	瀬町半穴地7～3,5,9	仙田地盤	157	#	古墳(古墳時代)
199	C-225 風 佛 田	祇園半穴地2番51～1	#	121	#	集落跡(平安時代)
200	C-433 風 江	釋迦山10	住宅地盤	87	#	鐵跡
201	C-233 山 口	宮次町地盤10～2	伊佐施設	144	#	集落跡(編文～平安時代)
202	C-511 畜 林 墓	古城二丁目3～1	農耕小地跡	145	#	鐵跡(中世)
203	C-511 畜 林 墓	古城二丁目5	公務員宿舍施設	468	#	鐵跡(中世)
204	C-234 明 聞 銀	久丁目北半壁敷8,9,21	事務所付会議室2階施設	356	試 験 池	集落跡(平安時代)
205	C-304 風 朝 城	長崎14番28延	ガス管路改工事	35	立 会 い	鐵跡(中世)
206	C-110 羽 五 重	山田山羽根寺15.16	道路工事及び水道埋設工事	1,610	#	集落跡(編文～当坂・平安時代)
207	C-047 下 内	高次子下ノ内22～2	会場施設	96	#	集落跡(奈良～平安時代)
208	C-102 有 小 有	東小泉通北側西66～2地	#	180	異 有 游	集落跡(奈良～平安時代)
209	C-234 風 通	六丁目南側南5～1	作業棧の増設	36	立 会 い	集落跡(平安時代)
210	C-102 雨 小 京	若林三丁目288～7	久間住宅施設	145	#	集落跡(奈良～平安時代)
211	C-235 風 直 通	六丁目子母屋4087,10,11	住宅地盤	134	#	集落跡(平安時代)
212	C-223 風 田 町	仙田町二丁目1110	内藤地盤	26	#	集落跡(平安時代)
213	C-104 郡 山	郡山三丁目35～38,49	住宅地盤	64	#	集落跡(奈良～平安時代)
214	C-316 有 七 城	新宿町508	合併地盤	732	試 験	鐵跡(平安時代)
215	C-300 Y 内 通	高次子下ノ内道1285平	切輪施設	813	調 査	集落跡(奈良～平安時代)
216	C-102 雨 小 京	並見原一丁目38	傾斜施設	55	立 会 い	集落跡(奈良～平安時代)
217	C-146 清 大 里 田	止川子古川地盤	仙田地盤	78	#	集落跡(平安時代)
218	C-301 清 木 田 通	前野町	電線桿ケーブル埋設	1,715	試 験	集落跡(平安時代)
219	C-104 郡 山	郡山三丁目10～2	生毛地盤	10	立 会 い	集落跡(古墳末～奈良時代)
220	C-232 風 附 通	内野仙君道築	362	試 験	集落跡(編文～山県・平安・近世)	
221	C-224 風 申 I	強羅地盤2～7	金会館建築	173	立 会 い	集落跡(平安時代)
222	C-102 高 小 京	南小泉通7丁目34～2,51～9	住宅地盤	70	#	集落跡(奈良～平安時代)
223	C-419 扇 長 芝 分 寺	木ノ下二丁目18～9	#	134	#	寺跡(平安時代)
224	C-136 雨 ル 申	若切字通ノ里117～1	#	97	#	集落跡(古墳～中世)
225	C-175 通 化	中野字北花90番地	内藤地盤	132	#	集落跡(平安時代)
226	C-223 風 田 町	稻田町二丁目1332	住宅地盤	124	#	集落跡(平安時代)
227	C-108 上 野	高山宇二村内41～8	#	131	#	集落跡(編文～奈良・平安時代)
228	C-102 有 小 京	古城二丁目2～2	共用住宅地盤	117	#	集落跡(奈良～平安時代)
229	C-511 畜 林 墓	古城二丁目3～1	保育園施設	30	#	鐵跡(中世)
230	C-224 風 申 I	仙宅半認負一舟12～3	仙田地盤	107	#	集落跡(平安時代)
231	C-234 風 申 敦	六丁目北半壁敷64～1	#	72	#	集落跡(平安時代)
232	C-511 有 古 町	川内南地無番地	耕作地盤	40	#	鐵跡(南北朝～江戸)
233	C-104 郡 山	郡山五丁目148～1	住宅建築	66	#	集落跡(古墳末～奈良時代)
234	C-102 雨 小 京	南小丘子二の坪4～5	建物倒解体	1,053	#	集落跡(奈良～平安時代)

番号	遺跡名	所在地	原因	開発面積	施設	遺跡の性格
235	C-141 高 嶺 沢	鍋ヶ谷字高瀬沢28-6	住宅建築	68	立会い	集落跡(縄文-平安時代)
236	C-104 箕 田	山都山五丁目151-3	住宅増築	903	試掘	集落跡(古墳-奈良時代)
237	C-102 南 小 里	道見塚二丁目36-10	住宅建築	64	立会い	集落跡(弥生-平安時代)
238	C-183 下 小 合	麻生一丁目4-3	共同住宅の建築	115	#	集落跡(縄文-平安時代)
239	C-211 中 田 塩 宇	佐野町中10-13,2-20-3,30-4	住宅造成	929	事前調査	集落跡(古墳-平安時代)
240	C-234 明 霧 桑	六丁目字牛板角1	社屋及び倉庫建築	245	立会い	集落跡(初期山陽-後期山陽-古墳-平安時代)
241	C-193 山 田 上 ノ 右	山田字松岸前3	共同住宅建築	139	#	
242	C-501 前 古 城	川内通無番地	住宅解体新築	41	#	城郭跡(南北朝-江戸)
243	C-185 兵 河 清 水	大野町字清水15,14-4	宅地造成	670	試掘	集落跡(古墳?)
244	C-102 南 小 里	道見塚一丁目18-36	広告塔建築	6	#	集落跡(弥生-平安時代)
245	C-202 霧 煙 通	葛井字京藏前10-7	事務所建築	71	#	集落跡(縄文-古墳-平安-近世)
246	C-240 萩 ナ 丘	萩ヶ丘9-11-1	售課校舎建設	463	立会い	集落跡(縄文-平安時代)
247	C-223 山 口	當初字山谷地10,11-2	住宅建築	70	#	集落跡(古墳-中世)
248	C-135 清 ノ 里	岩切町清ノ里77-6	#	109	#	集落跡(古墳-中世)
249	C-203 砂 石 用 業	砂押町142-2	#	49	#	集落跡(奈良-平安時代)
250	C-102 南 小 里	古地二丁目109-6	住宅建築	23	#	集落跡(弥生-平安時代)
251	C-102 南 小 里	南小里字二ノ坪28-45	住宅建築	72	#	集落跡(弥生-平安時代)
252	C-224 箕 巻 I	箕面字跡巻1番109-7	住宅建築	35	#	集落跡(平安時代)
253	C-141 高 嶺 沢	高峯字高瀬沢29-5	住宅建築	71	#	集落跡(縄文-平安時代)
254	C-300 下 ノ 内 通	富士字下谷地5-4	#	81	試掘	集落跡(奈良-平安時代)
255	C-501 仙 古 城	川内通無番地	住宅解体新築	42	立会い	城郭跡(南北朝-江戸)
256	C-135 清 ノ 里	岩切字清ノ里164-5	共同住宅起造	119	#	集落跡(古墳-中世)
257	C-136 菓 田 町	西中田二丁目3-4地	#	169	試掘	集落跡(弥生-平安時代)
258	C-223 保 田 町	福山町二丁目1232	#	86	立会い	集落跡(平安時代)
259	C-404 小畠根桑島地	小畠根三丁目40-51	住宅建築	24	#	窓跡(平安時代)

II. 調査報告

調査要項

遺跡名	西台畠遺跡	南小泉遺跡	泉崎浦遺跡	梅生台畠遺跡
所在地	仙台市郡山二丁目27-1地	仙台市南小泉字伊藤屋敷52-9	仙台市宮城字泉崎東2-1	仙台市柳生古畠地内
調査期間	昭和57年4月16日～5月31日	7月2日	9月27日、 10月4日～10月13日	8月9日～8月12日
調査面積	2,280 m ²	100 m ²	180 m ²	3,000 m ²
調査主体	仙台市教育委員会			
調査担当	仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係			
担当職員	柳沢・佐藤(甲)	加藤・金森	佐藤(乙)・加藤	早坂・高橋



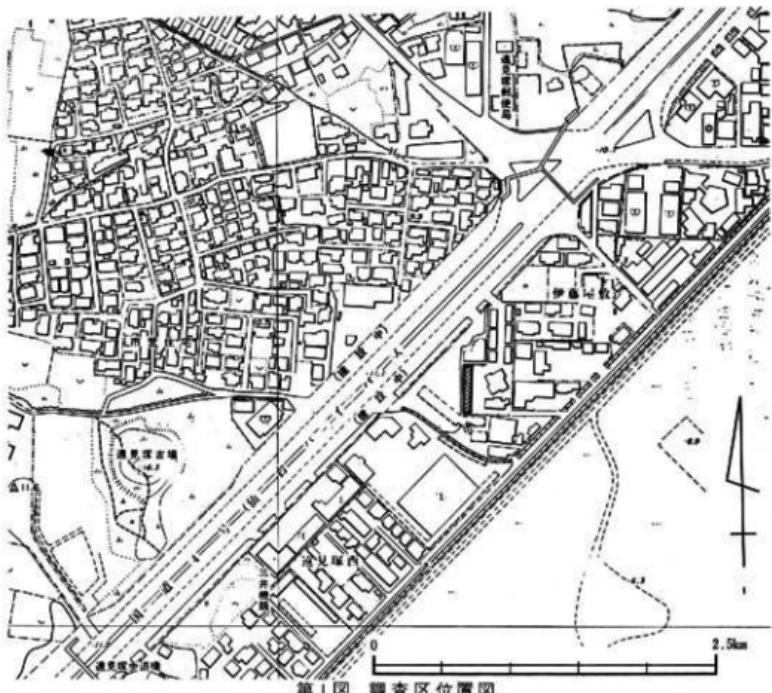
遺跡位置図

1. 南小泉遺跡

1. 遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、弥生時代から平安時代にかけての大集落跡であり、その範囲は仙台市遠見塚一・二丁目、南小泉二丁目、古城三丁目、南小泉字伊藤屋敷、字遠見塚西、字村東、字霞ノ目に渡っている。また当遺跡は、昭和14年に建設された霞ノ目飛行場の拡張工事の際に、多くの遺物・遺構が発見され、学会から注目されるようになった遺跡でもある。

遺跡の中心には、東北で第三位の規模を持つ国指定史跡の遠見塚古墳、西方には法領塚古墳、猫塚古墳があり、かつては大小の古墳群を形成していたと思われる。また、東方は仙台市東郊条里跡、北方には陸奥国分寺跡、同尼寺跡があり、この辺一帯は歴史的環境に恵まれた地域であると言える。しかし、都市計画街路・川内南小泉線が遺跡を横切って間もなく開通するなど近年來、著しい宅地化と共に開発の波を受けている所である。



2. 調査経過

昭和57年6月22日付、仙台市北根3-4-1 山田忠、泉市黒松6-31高橋忠尚氏より、仙台市南小泉字伊藤屋敷52-9において、ホテルを解体し新築する旨の発掘届が提出されたので、建物の建築によって破壊されると考えられる箇所の発掘調査を実施した。建築箇所に当たる敷地の東部に3×30mの南北方向のトレンチを設定し、盛土(約110cm)、旧水田耕作上(20cm)の底下、灰青褐色砂質シルトの地山で遺構確認を行い、北壁で土壤を1基検出したため、トレンチを北側に3m拡張し、土壤の全形を確認した。



第2図 基本層位模式図

3. 発見遺構

発見した遺構は、土壤1基である。

土壤 トレンチ東側のV層地山面で検出した。大きさは、長径3m、短径1.5mの横円形で、深さは10~20cmを計る。堆積土は、黒褐色粘土質シルトであり、弥生土器と土師器を出土する。

4. 出土遺物

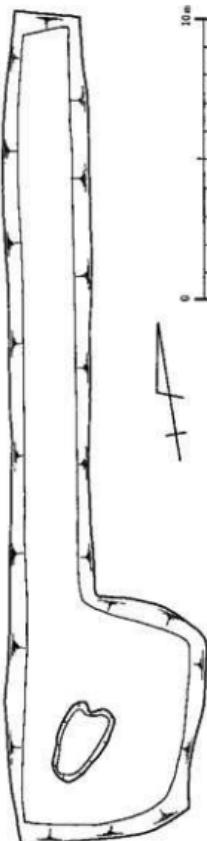
弥生土器 土師器に混入して、1点出土している。繩文が施されているが、小破片なので器形等の詳細は不明である。(第4図の1)

土師器 台付甕1点、环1点、詳細不明な破片が20点程出土している。

〈台付甕〉 底部破片で、甕底部と台部との接合面にナデの調整痕が観察される。その他詳細は不明である。(第4図の2)

〈环〉 土壤の最下層より出土した。底部より体部中央にかけて外傾し、そこから内湾する緩いカーブを描きながら口縁部に至る。口縁部は「く」の字状に外反する。最大径は口縁部にあり、最大径は器高の比は約1.7:1である。底部は、静止ヘラ切りである。

全体的に胎土がもろくなっているため器面調達が部分的にしか観察できないが、外面は、体部下端から底部にかけてヘラケズリが施され、内面は、口縁部から体部中央にかけて斜位のヘラナデ



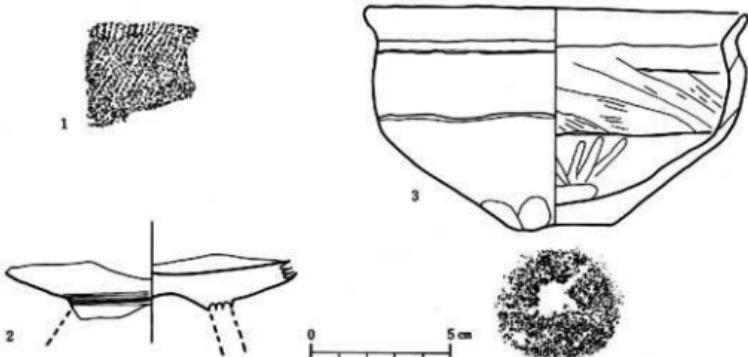
第3図 調査平面図

が、体部中央から底部にかけてヘラミガキ、指ナデが施されている。(第4図の3)

5. まとめ

今回の調査区は、南小泉遺跡の北端、仙台バイパスと霞ノ目飛行場の中間に位置する。仙台バイパスの東側は、飛行場拡張の際に土採りを受けている所が多く、今回の調査区も既に土採りされ、遺構の存在する可能性は少なかった。

しかし、残存状況は良好ではなかったが、出土した遺物から古墳時代の土壤を1基検出することができたことは、遺跡の広がりを考える上で貴重な資料となり得ると確信する。



第4図 遺物実測図

図版1
土壤実測状況



図版2
遺物出土状況



2. 泉崎浦遺跡

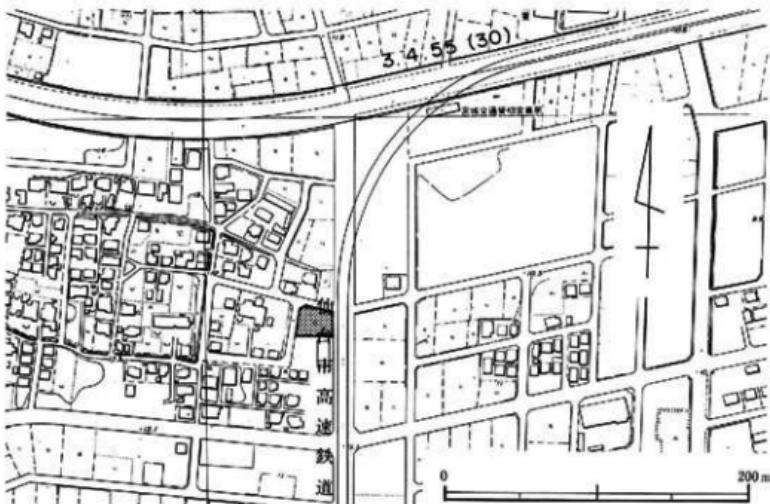
1. 遺跡の位置と環境

泉崎浦遺跡は、東北本線長町駅の南西1.5kmに位置し、仙台市富沢にある。富沢地区は、沖積平野である「宮城野海岸平野」に含まれ、微地形的には、「郡山低地」である。この地区には、名取川が形成した自然堤防、後背湿地が隨所にみられる。本遺跡は、富沢地区的土地区画整理事業がなされる以前から集落があった箇所で、周囲の水田に比して、微高地状であり、縄文時代後期の土壙が確認されている。

この地区には、多くの遺跡が分布しており、近年、発掘調査が行なわれているものが10ヶ所以上もある。すぐ南側にある山口遺跡では、縄文時代中・後期の土壙等、平安時代の竪穴住居跡が発見されている。それ以外にも、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡等の重層構造の遺跡がある。

また、地下鉄工事に係る遺跡の発掘調査も、昭和56年度よりはじまっており、本調査の東隣では、平安時代と考えられる畦畔遺構が検出されている。中世には、新荒川の南に富沢館が出現する。

以上のように、富沢地区には、縄文時代中期中葉から、中世までの各種の遺跡が、数多く分布している。



第1図 調査区位置図

2. 調査に至る経過

昭和57年9月、東北電気保安協会より、仙台市富沢字泉崎東2-1に事務所を建設する旨の届が提出された。遺跡保存の見地から設計変更を要請したが、工法として、パイレを打たざるを得ないとのことであった。

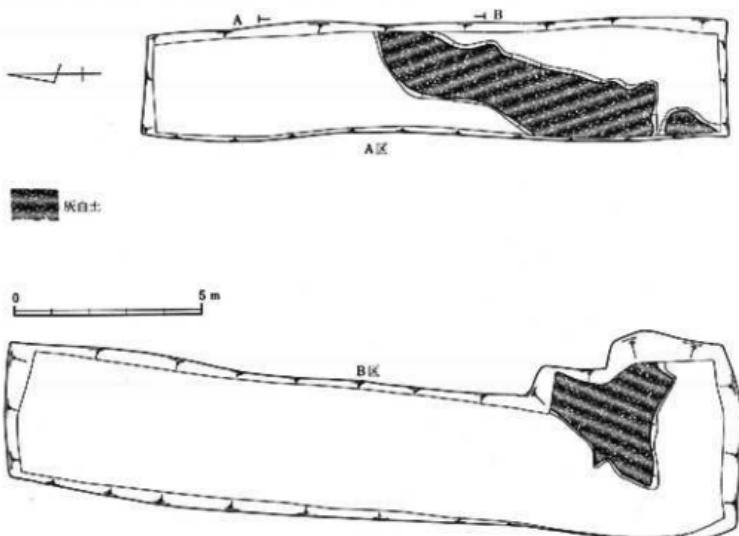
調査区に隣接する道路において、昭和56年度より、当係において高速鉄道建設に伴う事前の発掘調査を行なっている。その結果、平安時代頃と考えられる畦畔遺構が、道路面より1.2m下で、検出されている。また、調査区の南東150mの個所で縄文時代後期初頭の土壌を検出している。

9月27日に試掘調査を実施したところ、一部に灰白の層が検出され、西側に延びる可能性があるので、10月4日より13日まで、発掘調査を行なった。20m×4mと22m×4.5mの2本の調査区を設定し、盛土と旧耕作土を重機でもって排土し、遺構面を検出した。

3. 発見遺構と出土遺物

IV層上面で、畦状遺構を検出した。上端幅1.30~1.75m、比高5~10cm、長さ9m、上面に灰色の火山灰が堆積し、方向はN-15°-Eである。A区の南で、水口を検出した。A区西壁で上端幅38cm、深さ12cmを計る。

火山灰層の上面で、中世陶器片が1点出土した。(註1)



第2図 調査区平面図

4.まとめ

昭和57年度までの山口遺跡、泉崎浦遺跡の調査で、水田の畦畔上に10世紀初めに堆積した火山灰が確認されている。この火山灰は、今回検出された畦状遺構の上の火山灰と同一のものと考えられる。よって、この畦状遺構は、10世紀初めには形成されていたと考えられる。

水口附近の堆積土のレベルと広がり、B区のIV層はA区のIV層より15cm前後高くなっていることより、水は西より東に流れていると考えられる。

B区において火山灰の広がりは確認できたが、A区のような規則性は見出せなかった。

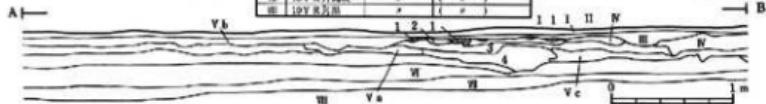
(注1) 名古屋大学 植崎 邦一教授の御教示によると、常滑産である。

(基本層位記号)

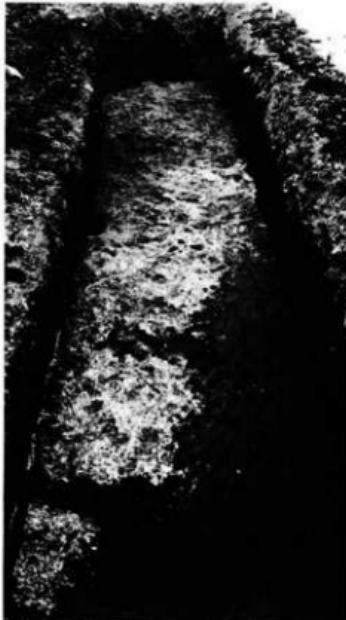
No.	土色	土性	固有名
1	茶褐色	砂質シルト	泥炭土
2	2.5Y 黄褐色	砂質シルト	耕作土
3	10Y R 常滑産	砂	
4	2.5Y 黄褐色	砂	

No.	土色	土性	固有名
1	2.5Y 黄褐色	砂質シルト	
2	2.5Y 黄褐色	砂	
3	10Y R 常滑産	シルト質粘土	堆積物を多量に含む (スラモモ)
4	10Y 黄褐色	砂	
5	10Y 黄褐色	砂	(1)
6	10Y 黄褐色	砂	(2)

No.	土色	土性	固有名
1	5 Y 黄灰	粗砂	火山灰
2	10Y R 常滑産	砂質シルト	
3	10Y 黄褐色	シルト	
4	10Y 黄褐色	砂質シルト	



第3図 基本層位



図版1
A区畦状遺構検出状況



図版2 A区水口完掘状況

3. 西台畠遺跡 (C-105)

所在地：仙台市郡山二丁目27-1・2、29-3

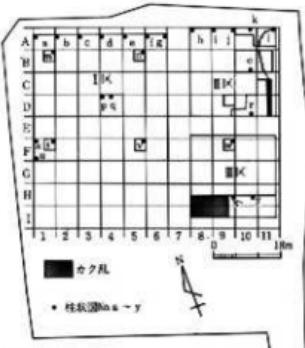
調査事由：病院建設

対象面積：約7,050m² 調査面積：約2,280m² 調査期間：4月16日～5月31日

担当職員：佐藤甲二・柳沢みどり



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



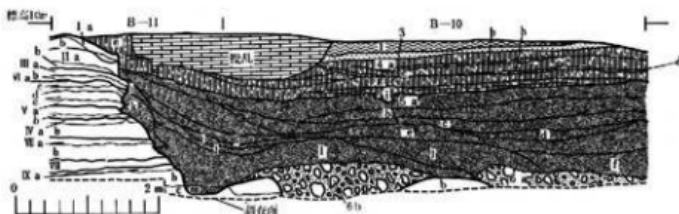
第2図 グリッド配置・河川平面図

西台畠遺跡は仙台市南部、名取川・広瀬川の形成した沖積地に立地し、東北本線長町駅の東約100mに位置する。遺跡の南東約2.4kmの地点で名取川に広瀬川が合流する。遺跡東側には、7世紀後半から8世紀初頭に位置づけられる宮衛跡・郡山遺跡が隣接する。

昭和32年、煉瓦用粘土の採掘中に、地表下約2mの5×10mの狭い範囲より、器形の知られる土器が15点出土（内、合口2点）し、その後、人骨片を伴う土壤墓も検出され、当遺跡が弥生時代中期樹形期の墓域であることが確認された。また、地表下約50cmで土師器片が、地表下約3mでは縄文時代後期の一括土器が1点採集されている。

今回、調査対象となった地点は遺物出土地点（第1図）の北約120mの約7,050m²で、標高11m強の平坦地である。土器出土地点よりは若干低い。当地点はセメント工場となっていた地区で、調査前にはこれを取り壊した後の更地となっていた。

発掘調査はN-20°-Eを南北ライン（A-I）、これに直交する東西ライン（1-11）の6×6mグリッドにより調査を進めた。便宜上調査区をI～III区の大地区に分けた（第2図）。各グリッドは4分割し、北東側より時計通りにa～dの小区を設けた。調査面積は約2,280m²であった。調査はまず客土・上部擾乱部分の排土から行なわれ（約1m）、工場構築時に於ける擾乱（場所によっては現表土下の4m以上に達する部分もある）を除く部分のB-1(a)、B-5(a)、B-10(a)、D-4(d)、D-9(a)、F-1(a)、F-5(a)、F-9(a)、H-10(d)グリッドを、



河川堆積土層誌記表

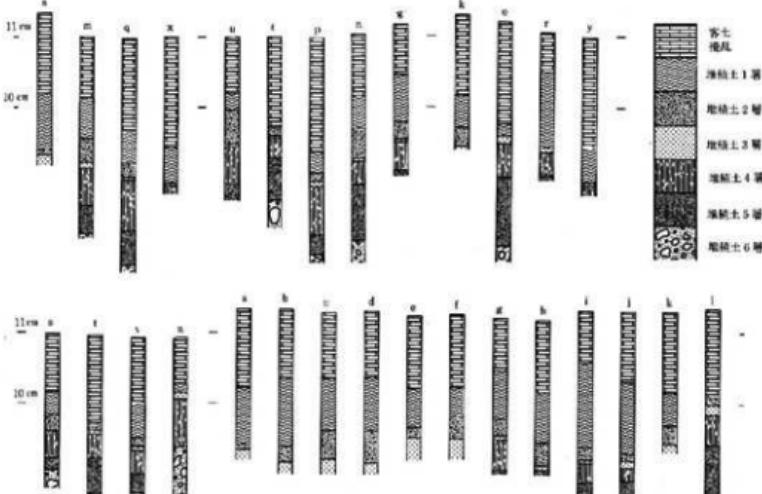
1	に、biv.灰褐色(30Y R %)	シルト	無分、マンガン粒を含む。灰白色を複数枚に混在する。
2	灰白色(30Y R %)		灰白色大山灰
3 a	に、biv.黄褐色(30Y R %)	シルト	無分、マンガン粒を含む。灰白色を複数枚に混在する。
4 b	に、biv.黄褐色(30Y R %)	粘質シルト	無分、マンガン粒を含む。灰白色を複数枚に混在する。
5 c	に、biv.黄褐色(30Y R %)	粘土	無分、マンガン粒を含む。灰白色を複数枚に混在する。
6 d	に、biv.黄褐色(30Y R %)	粘土	マンガン粒を多量に含み黑色に近い帶状を呈す。上部に多く下部に行くに従い少量化となる。
7 e	に、biv.黄褐色(30Y R %)	シルト	マンガン粒を含む。
8 f	に、biv.黄褐色(30Y R %)	粘質シルト	無分をシミ状に含む。
9 g	灰褐色(10Y R %)	粘土	マンガン粒を含む。
10 h	に、biv.黄褐色(2.5Y R %)	砂質シルト	粒子が細い、無分を多量に含む。
11 i	灰白色(2.5Y R %)	粘土	グライ層
12 a	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	西半分がより粗な砂を含み、東半分はやや細な砂である。無分を含む。グライ作用を受けている部分がある。
13 b	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	全体的に粗い粒子である。無分が強く沈着している。グライ作用を受ける。
14 c	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	全体的に細い粒子である。中央部で無分が強く沈着している。西半分でグライ作用を受けている。
15 d	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂礫層	粗い砂を基層として砂と前後の凹面を含む。灰白色的粘土ブロックをわずかに含む。
16 e	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	全体的に粗い粒子である。若干砂と泥層を含む。
17 f	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	純地に堆積。若干円礫を含む。
18 g	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂質シルト	グライ作用を受けた部分がある。
19 h	に、biv.黄褐色(30Y R %)	粘質シルト	河岸崩壊土か? 無分、マンガン粒を含む。
20 i	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂層	粒子が細い。グライ作用を受けた部分、無分が沈着した部分がある。
21 j	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂礫層	粗砂を基層とし小円礫を含む。無分が強く沈着した部分がある。
22 k	青灰色(5R %)	砂層	全体的にやや密な粒子である。グライ作用を受け青灰色にグライ化している。
23 l	明褐色(10Y R %)	砂層	灰白色の粘土、粗い砂、密な砂、シルトの混合層で、小円礫をまばらに含む。
24 m	に、biv.黄褐色(30Y R %)	シルト	無分、マンガン粒を含む。グライ層。
25 n	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂礫層	無分の沈着が強く、黒色化した部分もある。
26 o	に、biv.黄褐色(30Y R %)	砂礫層	5~10cmの大礫を少量含むが、3cm前後の小礫と粗い砂を基層とする。

第3図 B-11、B-10グリッド南壁セクション図

河岸部土層柱記表

I-a	に赤い黄褐色(10Y R 5%)	粘質シルト	鉄分、マンガン粒を含む。
b	に赤い黄褐色(10Y R 5%)	粘質シルト	鉄分、マンガン粒を含む。
II-a	暗赤褐色(10Y R 5%)	シルト	に赤い黄褐色と明赤褐色とか混合。鉄分、マンガン粒を含む。
b	赤褐色(10Y R 5%)	粘質シルト	に赤い黄褐色と明赤褐色とか混合。鉄分、マンガン粒を多量に含む。下部にマンガン粒を多く含む。
III-a	褐色(10Y R 5%)	粘土	マンガン粒を全面的に含む。
b	褐色(10Y R 5%)	粘土	褐色と明赤褐色と灰褐色とか混合。粘土の多くに(鉄分)マンガン粒を全面的に含む。
IV-a	暗褐色(10Y R 5%)	粘土	褐色を基盤とし、明赤褐色・灰褐色などに赤褐色を含む。マンガン粒を含むが目視よりは少ないと見られる。
b	黒褐色(10Y R 5%)	粘土	鉄分、マンガニクを含む。グライ層。
c	深赤褐色(10Y R 5%)	粘土	グライ作用を受けた部分は深オーリー色となる。黒褐色を部分的に含む。マンガン粒少量。鉄分を含む。
d	暗赤褐色(10Y R 5%)	粘土	グライ作用を受けた部分は深オーリー色となる。灰褐色を部分的に含む。Vb層よりも、マンガン粒、鉄分を少なく含む。
e	に赤い灰褐色(10Y R 5%) オーリー灰褐色(10Y R 5%)	粘土	グライ作用を受けた部分はオーリー灰褐色となる。IVa層よりも、マンガン粒、鉄分を少なく含む。
V-a	灰褐色(10Y R 5%) オーリー灰褐色(10Y R 5%)	粘土質シルト	グライ作用を受けた部分はオーリー灰褐色となる。シート状に灰褐色を含む。マンガン粒は無量。鉄分を含む。
b	オーリー灰褐色(10Y R 5%)	砂質シルト	下部になると深い灰色し、淡青色となる。鉄分が少なくなった結果に褐色に移る。白色斑を含む。グライ層。
VI-a	灰白色(7.5Y R 5%)	シルト質粘土	鉄分を含む。Vb層とVIb層の中間層。グライ層。
b	黒色(10Y R 5%)	粘土	かなり黒くしまっている。鉄分、マンガニク、白色斑を含む。VIb層とVb層の中間層。
VII-a	灰色(7.5Y R 5%)	シルト	真くしまっている。マンガニク無量、白色斑を含む。VIb層とVb層の中間層。
b	灰白色(7.5Y R 5%)	シルト	鉄分(鉄2%前後)を左に含む。マンガニク無量、白色斑を含む。
VIII-a	灰色(7.5Y R 5%)	砂質シルト	マンガニク無量、白色斑を含む。粒子の大きさで鉄分量を少量含む。
b	灰白色(5Y R 5%)	砂質シルト	マンガニク・白色斑を微量含む。鉄分がシートに移った部分がある。Vb層とIVb層の中間層。
c	灰白色(5Y R 5%)	砂層	マンガニク・白色斑を微量含む。鉄分がシートに移った部分がある。
d	灰白色(5Y R 5%)	砂層	区層より細い砂層。グライ作用を受けたオーリー灰褐色部分がある。鉄分がシートに移った部分がある。

第IV-a～IX-bまでの各層にはサンドパイプが認められる。



第4図 土層柱状図

中心として調査を進め、状況に応じて拡張を行った。その結果、I～IIIとも河川内であることが判り、わずかにII区A・B-11グリッドで河川左岸が検出された。岸側では、客土及び擾乱上の下に第1～IV層までの9層が検出され、最下層第IV層は砂層となり(第3図)、この下には、擾乱部分堆土(地表下約3.5m)の結果より同様の砂層が続くことが確認された。河川堆積土は大別すると6層から成る。2、5、6層の砂層、砂礫層は河川が機能していた間の堆積物であり、6層の礫層中には30cm以上の礫が多量に含まれておらず(写真5)、当時は流れがかなり強かったことが窺える。3層は灰白色火山灰層で、郡山遺跡で検出されているものと同様のものである。^(註3) この降下火山灰は現在のところ西暦900年前後と考えられている。1、4層は粘土及びシルトから成っており、これら両層は、サンドパイプ、鉄分、マンガン粒、グラウジ化が認められることより、水の影響下に置かれていたことが推測される。河岸層のどの層より河川が切り込んでいたかは、河岸部上部が擾乱等によりすでに削平されていたため、確認は出来なかった。

河川は堆積土により、灰白色火山灰降下前と降下後の二時期に分けられる。降下前の流路は土層柱状図(第4図)を見る限りでは、調査区に対して北西から南東へ流れていたことが想定され、川幅は60m以上を持つことは確実である。従って、土器を出土した地点は河川右岸の自然堤防上に立地していたものと考えられる。降下後の河川流路は、降下前とほぼ同様、あるいはより東側に寄っていたことも十分に考えられる。しかしながら、砂礫層中の礫が小さい点より、河川であっても小規模なもの、あるいは氾濫時に於ける堆積物の可能性もある。

出土遺物は全て河川堆積土層中よりの出土で、河岸層中よりの出土は認められなかった。遺物は土器片を中心として平箱1箱程度であり、縄文時代(後期以後?)の上器片3点を除くと他は全て古墳時代以後の土師器片、須恵器片、灰釉陶器片、赤焼土器片で、これは6層を中心としており、5、2層からも若干出土した。尚、河岸層及び河川堆積土中のプランツ・オ・パール分析を宮崎大学の藤原宏志教授に依頼したが、各層よりイネのプランツ・オ・パールは検出されなかった。

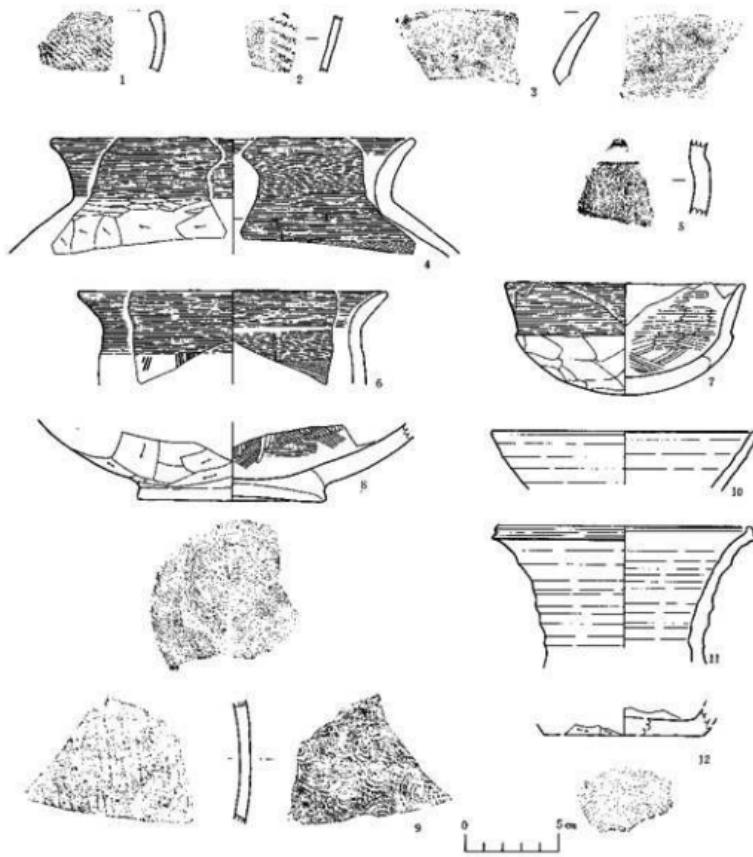
ま と め

今回の調査では旧河川が検出されたのみで、西台畠遺跡に関連する遺構、遺物は全く検出されなかった。現在、広瀬川は遺跡の西約1kmを北西から南東に向って流れているが、遺跡南南東約50mの地点には旧河道の痕跡が明瞭に認められることより、当調査検出の河川は広瀬川の旧河道であることはほぼ間違いないと思われる。しかも降下火山灰の年代より10世紀前後以前の年代が想定され、西台畠遺跡は右岸の自然堤防上に、郡山遺跡は左岸の自然堤防上に形成された遺跡であると言えよう。

註1) 伊藤安三「仙台市西台畠出土の弥生式土器」『考古学雑誌』第44巻第1号P11～28 1958

2) 伊藤安三「東日本における弥生時代の墓制」『文化』第25巻第3号P484～486 1961

3) 仙台市教育委員会「郡山遺跡II」「仙台市文化財調査報告書第38集」P48 1982



出土土器観察表

番号	測定名	著者	種別	器形	外観観察・構造				内部構造				深さcm	場所
					内側型	外側型	底	壁	口縁部	底	壁	口縁部		
1	II D-5a	地盤二号	土器	筒状	内凹	内凹	平	直	三段階	三段階	直	直	—	—
2	II	地盤二号	筒状	筒状	内凹	内凹	平	直	三段階	三段階	直	直	—	—
3	II D-4	地盤二号	土器	筒状	内凹	内凹	平	直	三段階	三段階	直	直	—	—
4	II D-9a	地盤二号	一輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
5	II D-10	地盤二号	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
6	III E-2	地盤中号	一輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
7	II D-10	地盤上号	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
8	—	—	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
9	—	—	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
10	III F-3	地盤二号	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
11	III E-10	地盤二号	二輪器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—
12	II 土器	—	土器	筒	内凹	内凹	平	直	ハサツ	ハサツ	直	直	—	—

第5図 出土遺物



1. 調査前全景(北東より)



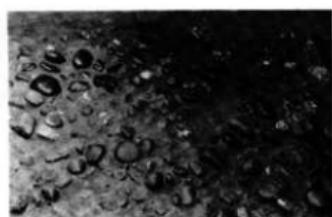
2. 調査前全景(南より)



3. I区調査状況(南より)



4. II・III区調査状況(南より)



5. 堆積土6層状況



6. B-10-II南壁セクション(北より)



西台烟遺跡土器出土地点周辺粘土採掘状況



昭和30年代(伊勢孝太郎氏提供)

4. 柳生台烟遺跡 (C-285)

発見に至る経過

当該地は昭和55年より団体営圃場整備事業を実施して来た地区である。57年度の区画整理工事の際にブルドーザーで地表から40cm程、削平を行なったところ、土師器、須恵器などの遺物と住居跡などの遺構が発見された。

遺跡に対する処置

上記のことから当教育委員会は、遺跡の所有者である仙台市柳生土地改良事業共同施行（委員長、阿部雄作）に対して、文化財保護法、第57条の5、第1項の規定により遺跡発見届の提出を指導した。そして8月9日の遺跡発見後、ただちに仙台市柳生土地改良事業共同施行と、その指導部局である仙台市経済局耕地課との3者間で遺跡に対する処置について協議に入った。現地での協議も交えた中で、当教育委員会としては文化財保護の見地から、遺構を破壊しない高さまで盛土をして区画整理工事を行なうよう設計変更を求めた。協議の中でも、その方法が最善であるとの合意に達し、遺構発見面から1.0m盛土をする設計変更をして、遺跡を保存する処置を行なった。当圃場整備事業は、昭和58年1月19日に完了した。

なお、当教育委員会は本遺跡を仙台市文化財登録番号C-285として登録した。



遺跡現状写真 (58年2月)



周辺の遺跡

C-013	安久東古墳
C-018	伊豆野権現古墳
C-036	上古川古墳
C-037	安久諏訪古墳
C-113	安久東遺跡
C-136	栗遺跡
C-139	狸尾遺跡
C-140	安久遺跡
C-157	雷遺跡
C-217	中田神社裏遺跡
C-222	関場遺跡
C-265	雷東遺跡
C-274	谷地田遺跡
C-285	柳生台烟遺跡
C-513	前田館跡
C-611	弘安十年供養碑
C-627	小西利兵衛煩德碑
C-635	伊豆野権現古墳群
C-668	雷古佛
C-669	関場古碑群

5. 仏像彫刻緊急実態調査略報III

調査員 渡辺洋一・成瀬茂・岩佐光晴（東北大学文学部東洋日本美術史研究室助手）

調査補助員 岡崎修子・長久保孝徳・皆原順子・大久保富美・窪田須美恵・長岡龍作・村上公司

仏像彫刻の調査は一昨年・昨年に続き3ヶ年目となるが、今年度は並行して近世社寺建築調査が行なわれたこともあり、件数としてはわずかな調査しか出来なかった。しかしながら近世社寺建築調査を通じ、また仏像彫刻の調査を行なっていない寺院の予備調査を合せて行なうことなどが出来た。

調査にあたっては仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係が主体となり、仙台市博物館学芸室・東北大学文学部東洋日本美術史研究室・同附属日本文化研究施設の協力を得て行なった。また調査上の疑問点その他については仙台市文化財保護委員会委員故亀田次東北大名誉教授の指導助言をいただいた。

〈概要〉

今年度は表に示した6件154点の調査を実施した。

昭和57年度仏像彫刻調査実施箇所一覧表

寺院名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	備考
輪王寺	57. 5. 10	渡辺洋一	岡崎修子	愛染明王坐像 毘沙門天立像 烏枢波摩明王立像	江戸	寺伝によると、光住（日隈五峰氏）が、収集した仏像であるという。
松音寺	57. 7. 27 28 29	渡辺 成瀬 茂	岡崎 長久保孝徳 皆原順子	觀音如來坐像（本尊） 阿難陀像（脇侍） 迦葉陀像（脇侍） 十六羅漢像（十六幅） 烏枢波摩明王立像 明王部像（森羅鉢祀？） 焰摩十王像（十二幅） 小動明王坐像 矜羅童子立像 制吒迦童子立像 觀音像 三十三觀音（三十一幅） 阿難陀如來立像 祖師像（二幅） 文殊菩薩坐像 達摩大師坐像 觀音三尊十六菩薩像（二十四幅）	江戸	文化八年の墨書き銘あり。 仙台三十三番九所觀音第23番札所本尊
昌伝庵	57. 8. 3 5	渡辺	長久保 皆原	觀音如來坐像（本尊） 文殊菩薩坐像（脇侍）	江戸	元禄二年の墨書き銘あり。 本尊と同時位と思われる。

寺院名	調査日	調査員	補助員	仏像	年代	備考
昌伝庵	57. 8. 3 5	渡辺洋一	長久保 哲原	脇賢善座坐像(脇件) 十六善神像(二十幅) 愛染明王坐像 毘沙門天立像 天部像(破損品) 祖師像(四幅) 文殊菩薩坐像 達磨大師坐像	江戸	
清淨光院	57. 8. 4	渡辺	長久保 哲原	不動明王立像 脇開羅童子立像 制吒迦童子立像 六地藏菩薩像(破損品・四幅) 焰摩十工生像(十二幅)	江戸	文政五年の墨書きあり。
真福寺	57. 9. 17 岩佐光晴	渡辺	長岡龍作 村上公司	伝安国上人祖師像 妙見菩薩立像(個人蔵)	中世 江戸か?	妙見菩薩は、同寺住家所蔵。 この調査には、故亀田孜 仙台市文化財保護委員会 委員が同行。
阿弥陀寺	57. 10. 18 58. 2. 16 波辺	岡崎	聖観世音菩薩立像 大久保富美 深川須美江	聖観世音菩薩立像	建貯	57.10.17の調査には故亀 田孜委員が同行。

今年度の調査物件の特徴としては、三十三觀音(松音寺蔵:写真6)、十六善神(松音寺蔵:写真12・昌伝庵蔵:写真40~59)、焰魔十王(松音寺蔵:写真15~27・清淨光院蔵:写真28~39)のようにある程度の数の仏像がセットになっている物件があったため、調査寺院数のわりには調査物件が多くなった。

また、今回の調査物件の中には輪王寺の愛染明王(写真1)・烏枢洪摩明王(写真2)、松音寺の不動明王(写真9)・烏枢洪摩明王(写真10)、薬師如来と思われる明王部像(写真11)・昌伝庵の愛染明王(写真5)等のように本来青銅では見られないような造像例があった。

このことは以下の理由からと思われる。まず輪王寺では、寺が明治初年の火災で堂宇宝物等そのほとんどが焼失したことから、これらの仏像はその後収集されたものであるし、松音寺では藩政時代隣接していた真言宗惠日山遍照寺(廢寺)所蔵の仏像が遷移されたものと思われるし、昌伝庵の愛染明王についても元来は単独仏堂に安置されていた同像が後年同寺に遷されたものと思われる。

ところで、今年度調査を行なって物件は江戸時代の作仏がほとんどであったことであり、胡粉彩色の像が多く、ものによってはその剥落が目立つほど破損しているものもあるが、比較的の保存状態は良好なものが多い。

(註)

- (1) 仙台市文化財調査報告書第49集「仙台市文化財分布調査報告」、「近世社寺建築調査概要」参照。
- (2) 輪王寺・松音寺・昌伝庵は、藩政時代仙古領では南郷町の奉心院と共に音羽郡四重村と称され、在仙続院では有数の佛像を有しており、仙居院には及ばないものの在仙院では比較的の仏像例を多い寺院である。
- (3) 明治9年3月5日の北山一円の大火灾で、山門(元禄5年建立)を除き焼失している。

写真



写真1
愛染明王坐像(輪王寺)



写真2
烏枢波摩明王立像(輪王寺)



写真3 民沙門天立像(輪王寺)



写真4 穢迦
祇迦如來坐像(松音寺)



写真5
愛染明王坐像(昌伝庵)



写真7 穢迦如來坐像(昌伝庵)



写真6 三十三觀音(松音寺)



写真8 同上 銘文



写真9 不動明王坐像(松音寺)



写真10 烏枢波摩明王立像(松音寺)



写真11 明王部像(松音寺)



写真12 穢迦三尊十六菩薩像(松音寺)



写真13 不動三尊像(清淨光院)



写真14 水沙門天立像(昌伝庵)

焰摩十王(松音寺藏)



写真15
葬頭河婆



写真16
焰摩大王



写真17
銘文
(焰摩大王背面)



写真18
秦広王



写真19
太山王



写真20
平等王



写真21
五道転輪王



写真22
五官王



写真23
宋帝王



写真24
都市王



写真25
變成王



写真26
初江王



写真27
太山王

焰摩十王(清淨光院藏)



写真28
秦広王



写真29
焰摩大王



写真30
葬頭河婆



写真31 太山王



写真32 平等王



写真33 五道転輪王



写真34 五藻王



写真35 宋帝王



写真36 都市王



写真37 变成王



写真38 初江王

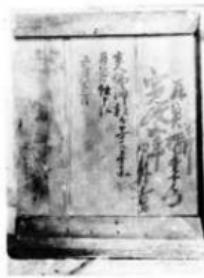


写真39
銘文(平等王台座)

十六善神(昌伝庵藏)



写真40

写真41

写真42

写真43

写真44



写真45

写真46

写真47

写真48

写真49

焰摩十王(清淨光院藏)



写真50

写真51

写真52

写真53

写真54



写真55

写真56

写真57

写真58

写真59

6. 仙台市指定文化財候補物件調査報告 1

仙台市教育委員会では、諮問機関である仙台市文化財保護委員会の中に仙台市指定文化財候補物件調査小委員会を構成し、指定の価値がありながら現在のところ指定にまで至っていない物件について近い将来指定文化財としていくための協議を行なっている。ところで、その協議に先立ち、指定候補物件についての資料の作成を目的とし、その候補物件の調査を同委員会委員の先生方に受託することにした。本年は、その初年度に当り、建築部門から2件を佐藤巧同委員会副委員長に、彫刻部門から4件を故亀田孜同委員会委員に調査を委託した。なお、彫刻部門については、受託者亀田孜委員が昭和57年12月5日に御逝去されたため、亀田委員から提出された報告を基に、仙台市博物館学芸室長浜田直嗣氏の指導のもとで、仙台市教育委員会社会教育課文化財管理係主事渡辺洋一が編集したものである。

I. 建 築 部 門

佐 藤 巧

(I) 大梅寺庫裡

最近新築された本堂を中心にして、上手に座禅堂、開山堂、下手に庫裡、観音堂、そして旧郷六御殿造構の書院がある。

大梅寺はもと祥岩寺と言われ、雲居禪師の座禅堂が基である。元禄年間大龜和尚入寺とともに寺域、堂舎を整備し、名を大梅寺と改めた。治家記録にも「御座ノ間ニ御出、大龜座元拝謁、御木祥岩寺住職ノ御礼、入院以後瑞鹿雲山祥岩大梅寺ト號スヘキ旨命アリ、御手書ヲ賜リ且偈ヲ賜フ」(元禄5・12・5)とある。このあと藩主鍋村は大梅寺を訪れ、本尊を拝礼し、「大龜座元入院初テ入セラルニ就テ十帖一本献上拜謁、重テ住持召出サレ寺領加増十貫文ノ高ニ成賜ル、且雲居禪師ノ塔所へ玄米五石寄附之……展待長沼下野」(元禄5・12・8)とある。この時の建物の具体名については不詳である。

「仙府神社仏閣図集」(柳津幸次郎)によれば方丈(この上手に上段の記入あり)を中心にして上手に廊下によって仏殿が接続し、仏殿の背後に開山堂が描かれ、また方丈の向って左手、即ち下手に庫裡が方丈に対して鉤の手に配され、両者は廊下で繋がれている。

明治初年の大梅寺図(大梅寺要書綴のうち)では堅17間、横11間、坪数3,417坪の境内に、方丈(11間×9間)、庫裡(9間×5間半)、仏殿(3間半×3間)、開山堂(3間×3間)等を記していく、主要堂舎名とその相関位置において差が認められない。

享保の頃より具体的な建物名として中門、方丈、御茶屋、御休息所、開山塔などの名も見え、また寛延の忠山公の御成りの時も客殿、開山堂などの名が見えており、後述の如く庫裡の存在

も元禄13年には確かであり、従ってさきの図に示す体裁はほぼ元禄の頃より具わっていたとみられる。

本堂は昭和51年、旧位置に復興再建された。庫裡はしばしば改修、修復、移動され、ほぼ旧位置に復したが、座敷と台所の関係が逆、即ち向きが逆になった。庫裡の創建は元禄13年（1700）で、元禄庚辰八月八日、塔主大龜葉詮焉、大工星長兵衛製の墨銘札が遺っている。その後腐朽し、文政4年（1821）に修理された。この時の上梁賀文によると「桁行九間、梁間四間半、北椽開クコト六尺、兼テ廊架ニ擬シ、以テ往米ニ通ズ、寢室大殿ト香積ノ間ニ結構ス」とある。

現在の庫裡は桁行9間半、梁間5間、屋根寄棟、茅葺。上屋、即ち拟首の梁間は4間で中央を太い中引（うし梁）が通る。台所境のところでは中引を更に受け梁で挟んで二重になる。疊敷の部分は殿司寮、副司寮、そして二室にまたがる広い食堂から成り、他の板の間部は典座寮、台所である。もとの間取りは復元図でみると土間、台所を除くと、広間型3間取りの、一般民家の古式と異なるものも興味を引く。中引が上屋梁（拟首梁）の真中を通り、前後の上屋柱がこれを中心に対称的に配される単純な架構法を示している。

軒の背も高く、両妻側には二階を設けており、とくに台所部分の三方を「せがい」造にし、台所入口に舟肘木の意匠を用いるなど、やや寺院的手法もみられる。台所の位置は現在とは逆で、寺境へ入る時にまず目に付くところで、ここに意匠的にも力を入れたものと思う。元禄頃の庫裡建築の姿を窺うに足りる造構と言えよう。

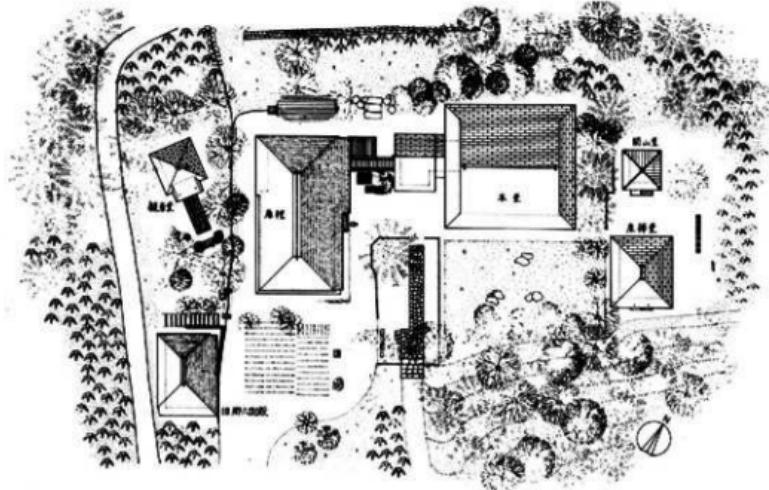


図1 大梅寺配置図

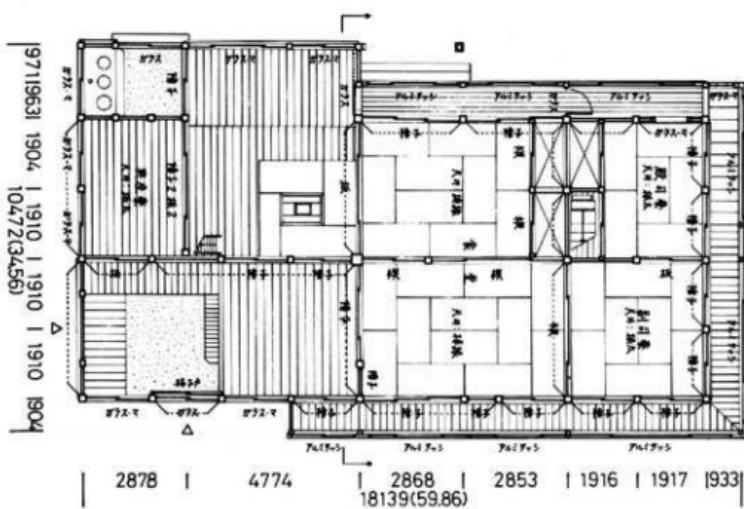


図2 平面図(現状)

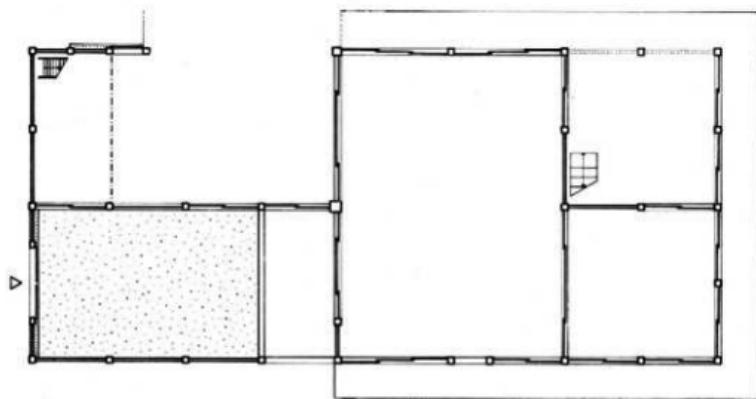


図3 平面図(復元予想図)

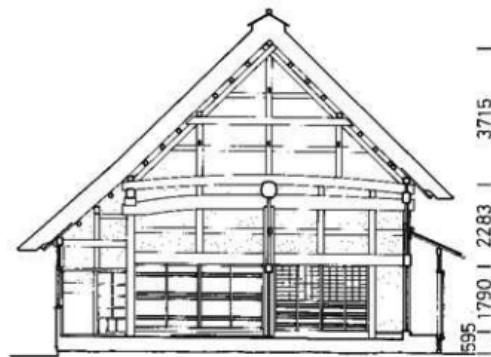


図4 断面図

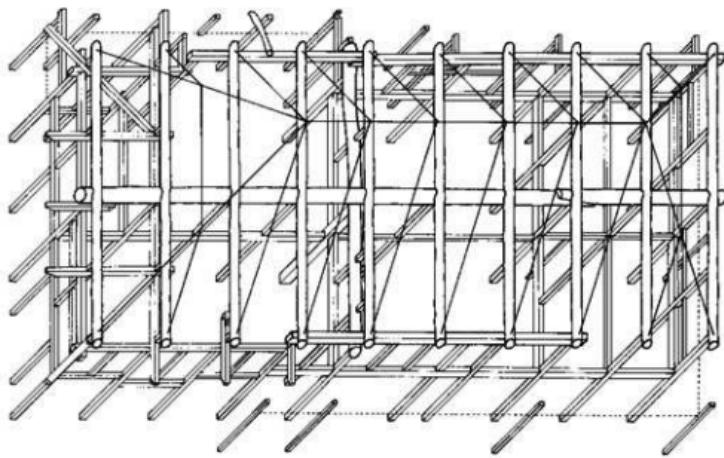


図5 構造図



写真1 側面(西側)



写真2 側面(東側)



写真3 玄関(現在)



写真4 軒廻り



写真5 玄関(元来)

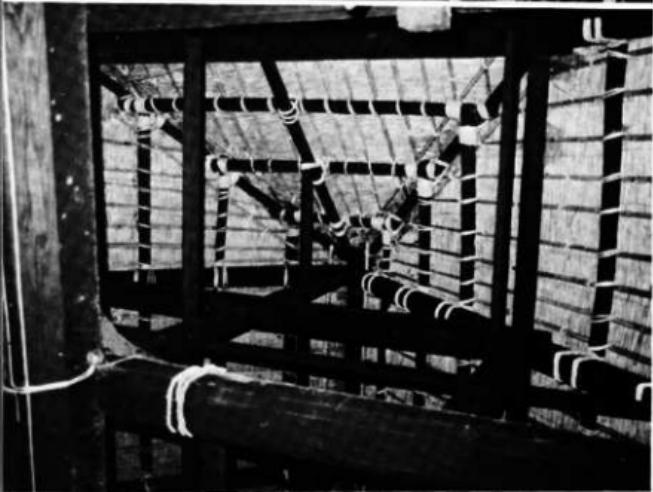


写真6 天井

(2) 愛宕山（向山）虚空蔵堂

封内風上記によれば、別当大滿寺及び当虚空蔵堂、千体仏ともにもと仙台城地にあった。中古は荒廃して無住となり、千体仏も多く散失した。天正元年（1573）に到り、龍川院3世の量山和尚の時代に虚空蔵堂を再築し、大滿寺を再興した。慶長初年、伊達政宗が仙台城を經營するに当たり、経ヶ峯の地に移し、虚空蔵堂、拝殿、鐘楼、および寺を建て、36石余の土地を寄付されたという。万治2年（1659）、経ヶ峯の虚空蔵堂の地に忠宗廟を建築するに伴い、再び虚空蔵堂と別当大滿寺を愛宕山とその西辺とに遷した。同年中に本堂、長床、鐘楼、大滿寺の造當が成った。總奉行、普請奉行は忠宗廟建立の藩役人が同様に努めたことが治家記録に見える。このことからすれば、虚空蔵堂の建築年代は万治2年と考えられよう。実は愛宕山に移る直前、経ヶ峯においてこの虚空蔵堂は再興されている。

仙臺ニ於テ、虚空蔵堂再興成就ニ就テ、入仏供養アリ、暫國伊藤三右衛門輔氏仰付ラル。別當大滿寺盛達和尚、去ル三月再興ノ為メ勘定不足ノ所、金子十兩御合力ノ願ヲ申上ラル。山口内記ヲ以テ金子十兩賜フト云云（伊達治家記録、慶安3・7・3）

慶安3年（1650）に再興、9年足らずで再び移すとすれば、全くの新築と言うより、あるいは移築に近い形ではなかったかとも思われる。万治の建築とも、慶安の建築とも見ることが可能であろう。

ほぼ南面して建つ桁行3間、梁間3間、宝形造、棟瓦葺（もと何葺なるや不詳）、露盤、伏鉢、宝珠を載せる。四方に高欄付縁側を巡らす。前面1間に向拝、向拝柱との繋ぎに海老虹梁を用いない。主屋前面中央間はもと双折棧唐戸、左、右の間は引違の舞良戸。軸部は円柱に台輪、頭貫、内法長押、腰長押、切目長押、板壁の制。軒は二軒替垂木、斗栱は出組で軒支輪を具える。中備に彫刻なしの透し彫股を配する。向拝の虹梁木鼻の形状はやや抽象化された象頭となり、特徴がある。虹梁中央に墨股を置き、左右に薄肉彫りの手挟を持つ。肘木の湾曲線、台輪、円柱の棕、頭貫絵様など細部に禪宗様的手法が濃い。簡素ながら總体に江戸初期の堅実な手法が認められ、外観にも安定感がある。

内部は中央において前後に二分され、中央に円柱2本、左・右の側柱に相当する位置に半円柱が立ち、内陣と外陣とに分離される。この位置に鶴居、敷居とも2本溝が遺るので、格子の引き戸が入れてあったものと思われる。内、外陣ともに格天井。柱および壁は杉材、柱のみ透漆塗、他は素木。向拝部の柱、虹梁は櫻材。

中央の奥、壁に接して箱型須弥壇上に宮殿形厨子が安置。厨子は1間四方。入母屋造、妻入柿葺。丸柱（棕あり）に台輪、頭貫、地長押、板壁で、中央に棧唐戸を吊る。二軒替垂木、隔は出三つ斗。中備に墨股を配する。

妻飾は虹梁、大瓶束。拝みに苔懸魚。柱、板壁、小壁、棧唐戸棟、地長押、須弥壇および軒桁

の地となるとことを黒漆塗とし、棟唐戸の總板、軒桁、台輪、長押、頭貫、斗拱、幕股、垂木などには胡粉下地の上に極彩色を施し、円柱や破風板には飾金具を打ち、大瓶束を金泥塗にするなど、燐然たる装饰性に富む。描く文様の線も美しく、幕股、肘木、虹梁、大瓶束の形、木鼻の姿も良い。厨子後背部の、本堂壁との取り付け状況からみても不自然で、本堂と同时期の一體の建築とは認め難い。様式上からみて、本堂建築より一段と古式であり、桃山時代様式手法の強い秀作である。

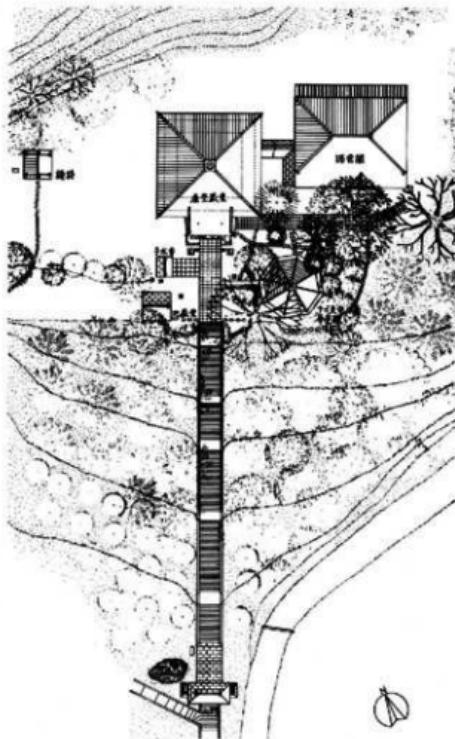


図6 配置図

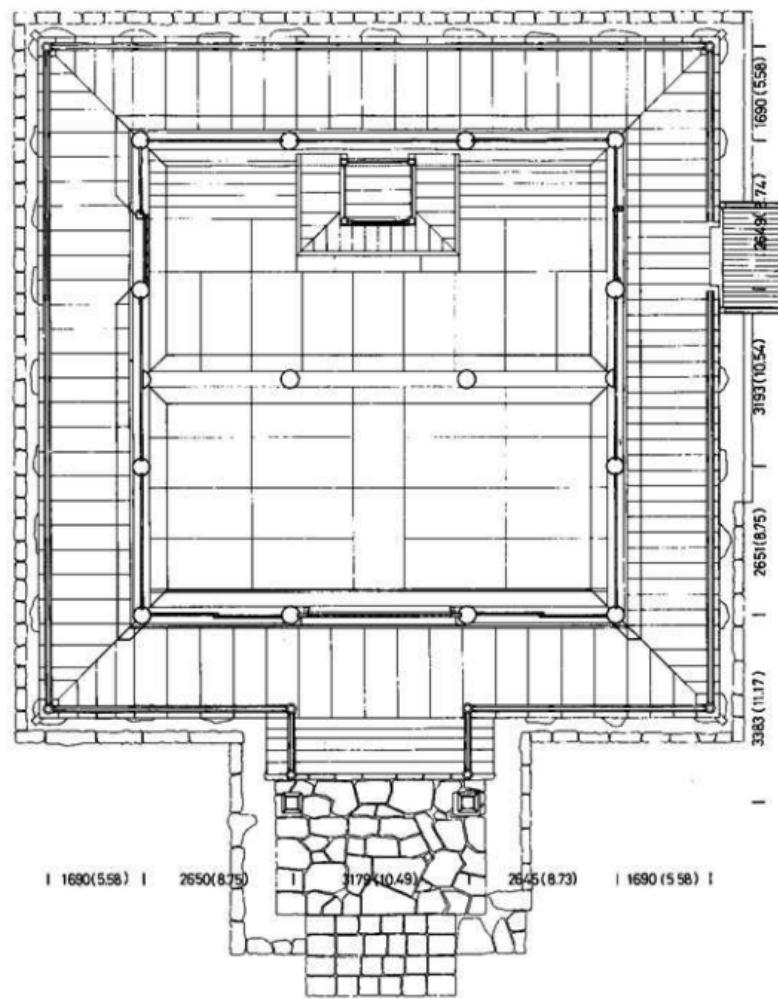


図7 平面図

図8 正面図

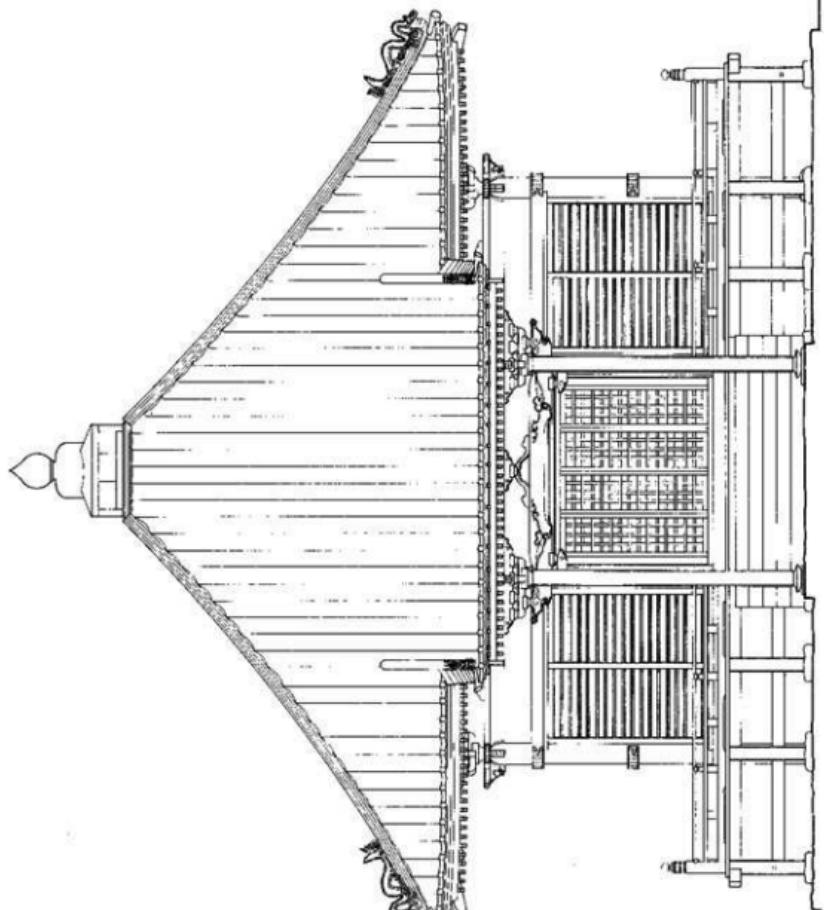


图 5-6

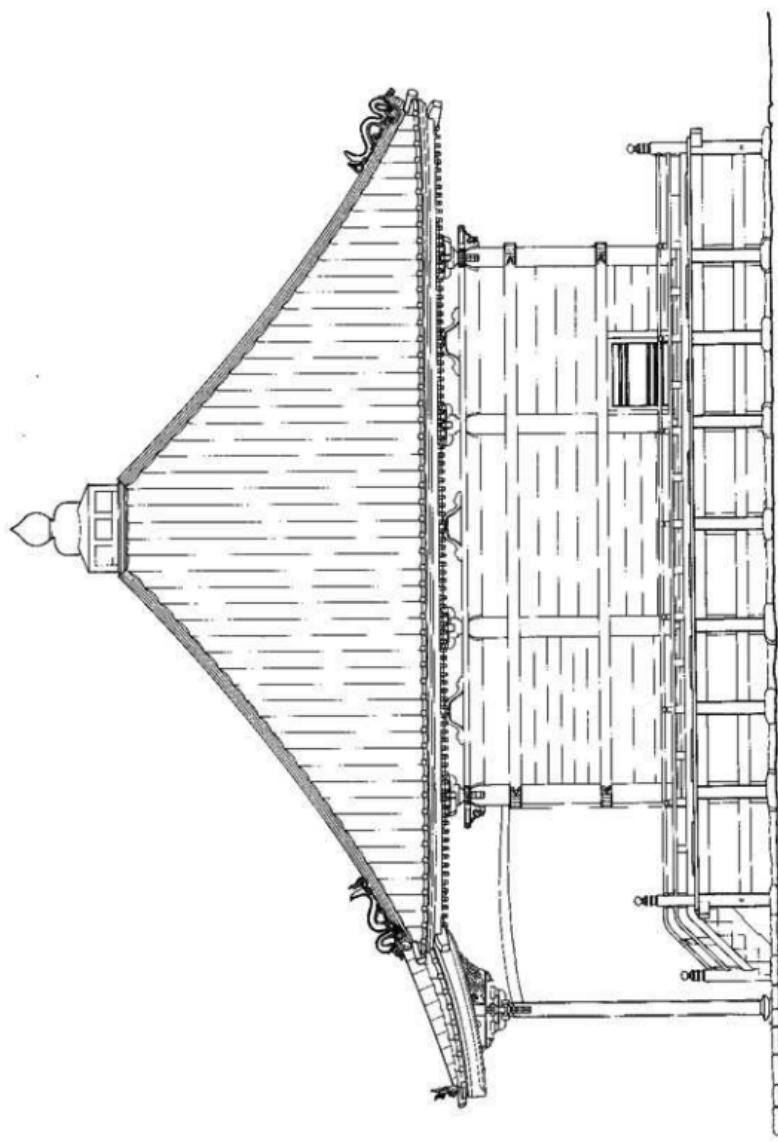


図10 断面図

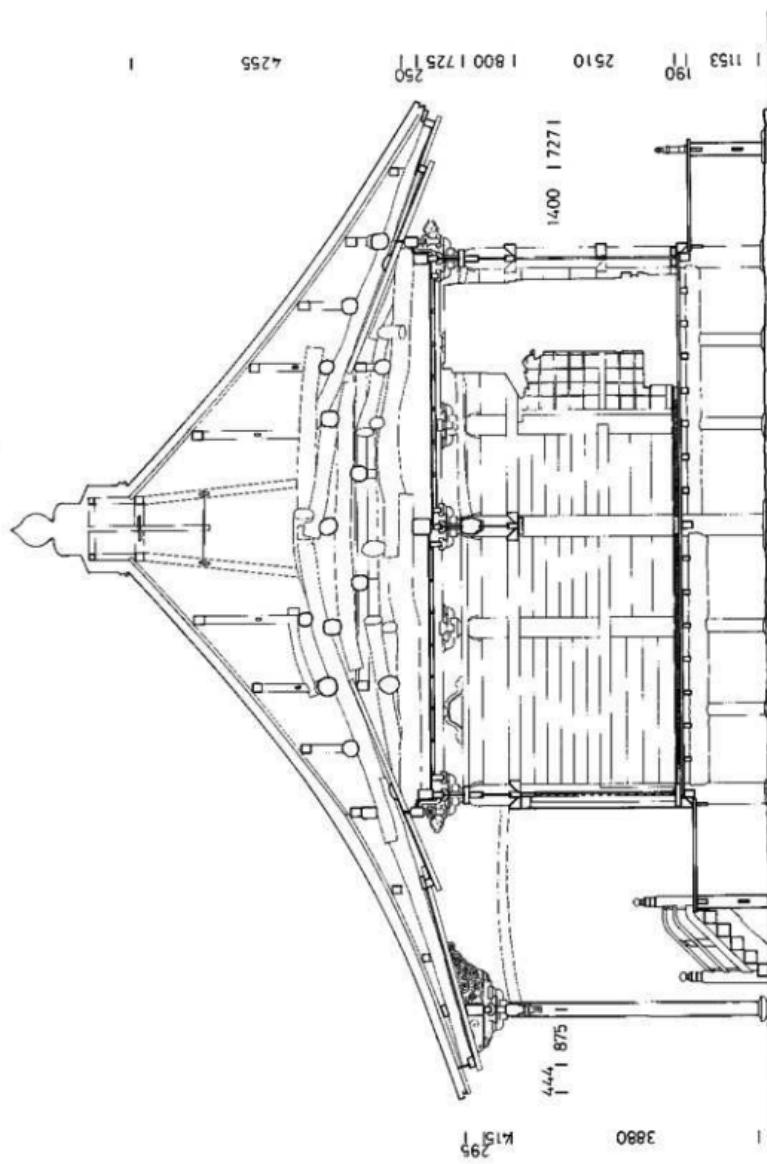




写真1 正面



写真2 側面



写真3 向 拝



写真4 木 桧



写真5 厨 子

II 彫 刻 部 門

龜 田 狂

(1) 聖観世音菩薩立像 一編

所有者：仙台市新寺三丁目5-3

時宗 法王山阿弥陀寺

代表役員 河野正俊

材 質：檜

時 代：鎌倉時代

作 者：春日作（寺伝）

法 寸：像高 85.1cm 胸厚 11.5cm

髮際下 73.8cm 腹長 12.5cm

白毫下 73.0cm 肩張 21.0cm

頭長 20.9cm 肘張 26.3cm

面長 8.9cm 膝張 19.9cm

面巾 10.5cm 膝張 18.5cm

面奥 11.5cm

〈形 状〉

檜材寄木造木造立像で、元米玉眼入であったものと思われるが現在は失われている。

全身漆地で軀部が金泥、納衣部分が金箔を施していたと思われるが、現在は軀部の金泥はほとんどとんでいる。

像容は左手は拳を立てて蓮華（未開蓮）をとり、右手は掌を見せて垂下させ、右足をこころもち折って左足に重心を置く姿勢をとっている。頭部は前後で矧いであり縫が露出し、天冠の前頭部の陰に小穴があったものと推測される。顔面は漆を塗り重ねた跡があり、口元など彫り口が埋めている。三道も見えなくなっている。目の部分はまぶたにあたる部分を舟形に削ぎ出した跡があり、このため像容が著しく損なわれた感すらある。

〈由緒・伝承〉

同寺は宗祖一遍上人の東北巡録の跡、福島県伊達郡梁川に於て伊達藏人政依（伊達家四世）が上人に帰依して建立されたといわれ、伊達家と共に移動し、寛永21年仙台藩二代藩主伊達忠宗（十八世）の時現在地へ移った。

当像は同寺三十四代春快和尚（江戸時代中期）の頃、當時低地であったため常に水を湛えて湿地の如くあった境内地で、たまたまその波の上に観音の姿が浮説したため、その水底を捜し

たところ発見されたのがこの像であるといわれた所から俗称「影沼観音」と称する。享保元年に同像のために堂宇を建て奉安し、仙台三十三番札所観音の第十七番札所となっている。現在は観音堂が腐朽したため本堂内に安置してある。

〈資料〉

『封内風土記』卷I 府城

「観音堂三十。……（中略）……其十五。在八塚阿弥陀寺。本尊正観音。春日作。不詳何時創建。伝云。昔時此辺地卑。東海潮湛如湖。観音浮影於波上。故今称之。日影沼観音。仙台順札三十三所。第十五番札所也。一説為第十七番

〈所見〉

様式的には神奈川県淨樂寺所蔵の阿弥陀三尊像（運慶作：国指定重文）の脇侍観音に類似しており、同像も元来は慶派の流れをくむ阿弥陀三尊の脇侍仏であった可能性が強い。

その製作年代については、像容の特徴から見て鎌倉時代の作と考えられるが、髪部分について見ると前代の藤原期の特徴も有す。

像全体は少なくとも二度（一度は江戸時代、もう一度はそれ以前）以上の修復がなされ、足ほど部分も後補のものであり、全体が厚ぼったく漆膜がおかげ当初の面影がうかがいたい所もあるが、仙台市内では数少ない鎌倉時代の作仏であるというところから価値は高い。

調査日：昭和54年10月22日

昭和57年10月18日

調査員：亀田 渡辺・岡崎



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5

(2) 伝安國上人祖師像 一編

所有者：仙台市土穂一丁目11-16

時宗 広沢山真福寺

材質：檜材

時代：南北朝～室町初頭

作者：不詳

法寸：	像高	80.7cm	肘張	53.0cm
	頭長	24.4cm	腰奥	55.0cm
	面奥	55.0cm	膝張	64.5cm
	面幅	14.7cm	膝高(左)	14.2cm
	耳張	18.2cm	袖張	81.1cm

〈形状〉

檜材寄木造木造坐像で、像は大きく頭部と軀部とに分けられる。頭部は前後二材で顔は正面入のひきしまった理知的な面立をしている。軀部は前後二材、肩先は概に一材に三角材を寄せ、肘先一材で手を差し込む、また脚部は横一材と比較的単純な木造法を用いている。体内はくりぬかれて空洞となっているものの木部の厚さが5cm余と比較的厚く、銘文らしいものはどこにも見あたらない。

總体の彩色は布貼の上に漆が塗られていたと思われるが現在は剥落が目立つ。

手は合掌し、足は襷をくんだ形となり、摩手の袂衣のひだは独特のやわらか味を有す。

〈由緒・伝承〉

当寺は元来鎌倉末期に登米郡に寄宿した安國上人が創建したといわれ、伊達政宗の仙台開府後仙台に移ったものといい、現在は同寺境内の安國堂内の厨子（江戸中期：元文元年の銘あり）内に納められている。

しかしながら、寺が數度にわたり火災にあっておりことから、現存の厨子が作られた元文元年以降は同寺に安置されたことは明らかであるもののそれ以前については不詳の点が多い。

〈資料〉

『厨子表銘文』

元文元 十二月三日

奉寄進

安國上人御厨子

廣澤山三十七世

其阿元水欽誌

施主	
河原町	白坂星善十郎
北	
北目町	金子長左衛門
同 町	田中星権兵衛
同 町	吉田星門十郎
柳 町	大藤屋所左エ門
同 町	黒田星八郎右エ門
同 町	境屋忠兵衛
同 町	境屋彦十郎
大町二丁目	土屋與兵衛
同 町	鈴木星八右エ門
大町一丁目	山田星久兵衛
立 町	山川星仁右エ門
大町二丁目	山田星伊兵衛
同 一丁目	山田星六兵衛
元柳町	福屋座右エ門
同 町	中屋孫七郎
園分町	箱屋長十郎
原 町	渡辺源右エ門
田町指物師	渡辺利兵衛
荒町塗師	渡辺清之丞
柳町金物師	渡辺助十郎
北目町	菊地孫六
	橋屋市兵衛
河原町	白坂星七郎兵衛
大 町	山田星忠兵衛
南村町	小村星市 衛門

〈所見〉

同像は、極めて写実的でありその彫技も順達で、衣文は的確に整理され各部ともまとめに難はない。その手がたい、重厚な作風は京都辺りの本格的な肖像彫刻と類を一にするものであり、また、材質が檜であるということを鑑みても中央の作であって、何時の頃か東北の地へ伝えられたとも考えられ得る。

これが寺伝どおり安国上人の肖像であるとすると、上人は鎌倉後期に全國行脚しながら布教

に務めたとされることから、上人示寂後（建武三年没）あまり時間のたっていないうちの作と考えられ得るし、像容からみても中世（南北朝～室町初頭）の作と見ることが出来る。

但し、幾度かの火災によりやけこげ、面部左眼を中心として鼠害による欠損があり、保存状況は必ずしもよいとはいがたい状況であったが、近年在仙の仏師林風雲氏により修理が成され、当時の姿に近い形にもどっている。

在仙の肖像彫刻としては現在のところ最古のものであり、またその真容を伝えるという点でも逸品で、骨格表現や微妙な肉付けなど個性的な風貌をつくりあげている点は他に見ることの出来ないものである。

調査日：昭和55年10月24日

昭和57年 9月17日

調査員：亀田 渡辺・岡崎

岩佐（東北大東日美助手）

他学生3名



写真1

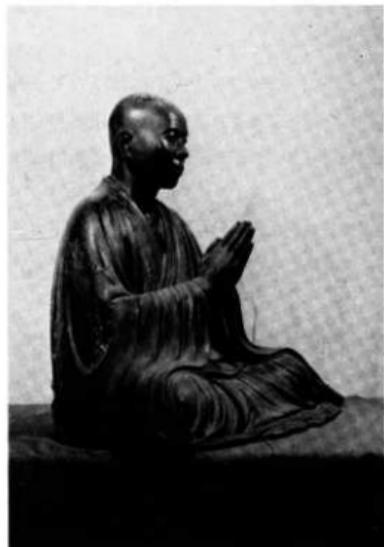


写真2



写真3

(3) 駕迦如來坐像（胎内仏含）

所有者：仙台市新寺四丁目7-6

曹洞宗 森城山大林寺

代表役員 田村信孝

材質：檜材

時代：江戸時代（軸内墨書銘札に寛保元年の作とある）

作者：不詳

法寸：像高 45.4cm 肩張 17.2cm

面幅 5.7cm 胸厚 10.0cm

面奥 8.7cm 膝張 31.0cm

面長 5.0cm 膝奥 11.7cm

頭長 12.0cm 光背高 82.0cm

（胎内仏）

總高 16.2cm 面奥 2.0cm

像高 6.9cm 肩張 3.6cm

頭長 2.4cm 肘張 4.9cm

面長 2.0cm 光背高 9.2cm

面幅 1.8cm 白座高 6.2cm

（形状）

檜材寄木造玉眼入の坐像で、全身朱漆塗の上に金箔が押してある。手印は禪定相の法界定印を結び、墨書銘で作仏の由緒書がある。（胎内墨書銘札及び像背面の墨書銘）なお、胎内には、弘法大師作と称する胎内仏が納められている。

胎内仏は、施無畏・与願印を結ぶ小金銅仏で、同像は、銅板金を切り透した唐草文透彫の光背に木造彩色の台座をつけ木像の底抜に装置し嵌めこみになっている。

（由緒・伝承）

同像の墨書銘によると、大林寺七世三列和尚が住持の時の寛文13年に肴町の佐藤平兵衛が賊難をおそれ、弘法大師作といわれる小金銅仏を新造の仏像の胎内に納めたが、その像が粗悪であったため、寛保元年に長沼氏がまた新たに仏像を作りその中に納め直し、同寺の本尊とした。

（資料）

「木造背面墨書銘」

弘法大師宗作御長寸八分之釋迦像

□口置

寛保元歳八月初二日

當寺十二世大巖 誌焉

当山廿七卉

禪徵信孝代修復

昭和四拾五年參月吉日

「胎内巻書銘札」

(表) 寛文十三年當寺七世三列和尚現住之時仙臺肴町佐藤平兵衛懽於戒難鑿置千新佛其新佛作以兼荒有長沼氏難刻之新佛ニ奉籠者也

寛保元年八月初二日

(裏) 弘法大師掌作 壱寸八分釋迦牟尼佛也

森城山大林寺十二世大巖融誌焉

〈所見〉

江戸時代の作であるとはい、像の出来ばえがよく、金銅小仏（弘法大師掌作：寺伝）の胎内仏を有すること、又墨書銘により製作年代・由緒などがはっきりしており、その時代の基準作としての価値は高い。

調査日：昭和53年3月（寺の要請）

昭和55年10月23日

調査員：亀田　渡辺・岡崎



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

(4) 大元帥明王立像 一編

所有者：仙台市八幡四丁目6-1

大崎八幡神社

代表役員 小野日雅一

材質：檜材 赤漆（丹褐色）塗彩色

*儀軸は身黒青色（覺禪鉢第九十・大元法下）

時代：江戸時代（厨子の墨書銘によると「享保己亥之春……點眼加持畢」とある）

作者：江戸存在の仏師と思われる。

法寸：像高 65.0cm 胸張 18.0cm

面巾 12.0cm 胸奥 8.0cm

面奥 10.5cm 腕張 37.0cm（左右第二手間）

面長 18.2cm 肘張 18.0cm

〈形 状〉

檜材寄木造五面八臂、二邪鬼を踏む立像（小栗柄本）最上頭には赤龍の纏髪が施してある炎炎髪で、全身には蛇が懸けてある。

八臂は左上手は輪、次手は梨を執り、次左右二手は手前合掌し供養印を作り、次下手には索を執る。右上手は跋折羅、次手に棒を執り次手は印を作り、次下手は手刀を執る。また腕臂上は皆蛇が纏っている。これらの特物のうち棒、索及び劍の柄は残っているがその他は欠けている。又像脚は二葉叉を踏んでいる。

〈由来・伝承〉

この像は、仙台藩五代藩主伊達吉村が武運長久・子孫繁栄を祈念して同社内に建立した大元堂の本尊（御神体）として作仏させ、江戸の真福寺で開眼したものという。

当初の堂宇は腐朽したため昭和45年に取締され、同像は暫くの間社務所内に保存されていたが昭和55年に新堂が建立され現在は同堂内陣に安置されている。

〈資 料〉

銘文（透塗墨子の墨内側の墨書銘）

向って右

享保己亥之春仲春吉旦蒙 陸 大守吉村公之命於武都真福道場致點眼加持畢

向って左

前往山臺龍寶後江府真福沙門梅國堂泰音謹識 

〈所 見〉

大元帥明王の図像には主なもの七種あるが、本像は小栗柄本（秋篠寺）常晚将来の像に依づ

て作られた比較的正当な像容であって、製作年代は江戸であるが銘文によりその由緒が明らかであることなどから価値は高い。

典一 捨：著無畏訛「阿託薄俱元師大將上仏陀尼經」修理儀軌卷中

梁代「阿託拘鬼神大將仏陀尼經」

調査日：昭和55年10月22日

昭和57年6月1日

調査員：亀山 渡辺・岡崎



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5

III. 楽 報

1. 外部協力活動

文化財保護思想の啓蒙普及につき、仙台市内外よりの協力要請に基づき、下記の講演等を実施した。

年 月 日	チ 一 マ	対 象	担当
57. 9. 22	仙台の原始古代	川平小学校社会学級	早坂春一
10. 15	仙台の古代史	上杉山通小学校社会学級	"
10. 30	釋迦と聖武 岩切の中世史—岩切城—	岩切公民館	"
11. 16	岩切地区の歴史散歩	岩切小学校社会学級	"
57. 5. 25	仏像彫刻の見方について	仙台懇訪会	渡辺洋一
10. 10	おくのほそみち散策の集い	仙台市歴史民俗資料館	"
10. 19	仙台の文化財めぐり 北山五山を訪ねて	仙台懇訪会	"
12. 5	仏像彫刻の見方について	宮城県文化財友の会	"
57. 10. 16・17	「郡山遺跡の成果について」	古代都市研究会	木村浩二
58. 2. 26・27	「郡山遺跡三十年の成果について」	城陽古美術研究会	"

2. 研修活動

文化財担当職員の実務の向上をはかるため、下記の研修に参加した。

日 時	内 容	場 所	担 当
57. 5. 9 ～5. 23	昭和57年度埋蔵文化財発掘調査技術者専門研修「縄溝遺跡調査課程」	奈良国立文化財研究所	渡部弘美
57. 5. 25	昭和57年度文化財保護管理事業に伴う宮城県文化財保護地区指導員走りに文化財担当者会議	東北歴史資料館	大武隆夫
57. 6. 16 ～6. 17	市町村文化財担当者等研修会	"	佐藤隆
57. 7. 1	市町村文化財担当者等研修会	"	森野裕彦
57. 7. 22 ～6. 17	市町村文化財担当者等研修会	"	佐藤隆
57. 10. 19 ～11. 6	昭和57年度埋蔵文化財発掘調査技術者専門研修「縄溝考古講習」	奈良国立文化財研究所	渡辺洋一
57. 10. 20	市町村文化財担当者研修会	松島中央公民館	渡辺洋一
57. 11. 15 ～11. 19	昭和57年度文化財行政基礎講座	東京国立科学博物館	山口宏
57. 12. 7	宮城県史跡整備連絡協議会専門研修会	多賀城市役所	早坂春一

3. 仙台市内の指定文化財

仙台市内には、下記の指定文化財がある。

種 別	有 形 文 化 財						無 形 文 化 財			史跡	天然記念物	計
	建築	彫刻	絵画	書道	工芸	考古資料	歴史資料	金石文	文化財			
国 宝	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3
国指定	3	1	-	-	6	5	1	-	-	5	3	24
宮城県指定	8	6	4	-	5	-	1	-	2	1	-	28
仙台市指定	2	1	4	1	3	-	5	4	-	3	2	25
計	14	8	8	3	14	5	7	4	2	1	8	80

4. 寄贈図書

105の機関より264冊の図書が寄贈された。

5. 仙台市文化財保護委員会委員名簿

	氏名	専門分野	現職	新再の別
委員長	加藤 陸奥雄	動物	宮城県立美術館長	再任
副委員長	佐藤 巧	建築	東北大学工学部教授	"
委員	浅野 雄男		仙台市議会議員	"
"	安倍 郁二	工芸	三島学園大学教授	"
"	伊東 信雄	考古	東北学院大学文学部教授	"
"	岩崎 敏夫	民俗	東北学院大学文学部教授	新任
"	上原 昭一	絵画・彫刻	東北大学文学部教授	"
"	大橋 広好	植物	東北大学理学部教授	"
"	佐藤 明	絵画	東北学院大学教養部教授	再任
"	芹沢 長介	考古	東北大学文学部教授	新任
"	高橋 富雄	国史	東北大学教養部教授	"
"	中川 高	刀劍	宮城県刀劍登録審査員	再任
"	中川 久夫	地質・地形	東北大学理学部助教授	新任
"	宮城 正俊	陶磁器	仙台市民ギャラリー理事長	再任

6. 仙台市教育委員会刊行書籍目録

1) 文化財パンフレット

- 第1集 仙古のあゆみと文化財
- 第2集 埋もれた仙古の歴史
- 第3集 仙古市の古建築I (明治以前)
- 第4集 仙古市の古建築II (明治以後)
- 第5集 仙古市の古建築III (失なわれた古建築)
- 第6集 仙古市仏像研究I (如来記)
- 第7集 仙古市仏像彫刻II (菩薩記)

2) 仙台市文化財調査報告書

- 第1集 天然記念物茎屋下セコイア化行林調査報告書 (昭和39年4月)
- 第2集 仙古城 (昭和42年3月)
- 第3集 仙台市燕沢書院跡穴古墳調査報告書 (昭和43年3月)
- 第4集 史跡陸奥國分尼寺跡環境整備並に調査報告書 (昭和44年3月)
- 第5集 仙台市赤南小泉法築造古墳調査報告書 (昭和47年8月)
- 第6集 仙台市成吉五本松窓跡発掘調査報告書 (昭和48年10月)
- 第7集 仙台市葛西裏町古墳発掘調査報告書 (昭和49年3月)
- 第8集 仙台市向山愛宕山腰穴群発掘調査報告書 (昭和49年5月)
- 第9集 仙台市根岸町宗神寺横六群穴群発掘調査報告書 (昭和51年3月)
- 第10集 仙台市中田町亥末道跡発掘調査報告書 (昭和51年3月)
- 第11集 史跡達見塚古墳環境整備子備調査報告書 (昭和51年3月)
- 第12集 史跡達見塚古墳環境整備第二次子備調査報告書 (昭和52年3月)
- 第13集 南小泉遺跡一範囲確認調査報告書一 (昭和53年3月)
- 第14集 亥末道跡発掘調査報告書 (昭和54年3月)
- 第15集 史跡達見塚古墳昭和53年度環境整備子備調査報告書 (昭和54年3月)

- 第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし（昭和54年3月）
- 第17集 北尾敷遺跡（昭和54年3月）
- 第18集 桥江遺跡発掘調査報告書（昭和55年3月）
- 第19集 銀杏山地下鉄開発分野調査報告書（昭和55年3月）
- 第20集 史跡遠見坂古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）
- 第21集 銀杏山市開発関係道路調査報告書（昭和55年3月）
- 第22集 細ヶ瀬（昭和55年3月）
- 第23集 年報1（昭和55年3月）
- 第24集 今泉城発掘調査報告書（昭和55年3月）
- 第25集 三神事遺跡発掘調査報告書（昭和55年3月）
- 第26集 史跡遠見坂古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）
- 第27集 史跡陸奥国分寺跡昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）
- 第28集 年報2（昭和56年3月）
- 第29集 郡山遺跡I - 昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）
- 第30集 山田上・山遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）
- 第31集 仙台市開発関係道路調査報告書II（昭和56年3月）
- 第32集 仙台市開発関係道路調査報告書III（昭和56年3月）
- 第33集 山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）
- 第34集 六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）
- 第35集 南小泉遺跡一部市町村街路建設工事調査第1次調査報告（昭和57年3月）
- 第36集 北前道遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
- 第37集 仙古平野の遺跡群I - 昭和56年度発掘調査報告書I（昭和57年3月）
- 第38集 郡山遺跡II - 昭和56年度発掘調査報告書II（昭和57年3月）
- 第39集 義沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
- 第40集 仙台市高速鉄道開発道路調査概報I（昭和57年3月）
- 第41集 郡山遺跡一地造成に伴う緊急発掘調査（昭和57年3月）
- 第42集 東遺跡（昭和57年8月）
- 第43集 湾ノ集遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
- 第44集 丸町・茂庭住宅造成工事地内遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第45集 郡山遺跡I - 昭和57年度発掘調査概要（昭和58年3月）
- 第46集 郡山遺跡II - 昭和57年度発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第47集 仙古平野の遺跡群II - 昭和57年度発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第48集 史跡遠見坂古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年3月）
- 第49集 仙台市文化財分布調査報告書I（昭和58年3月）
- 第50集 岩切堀中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第51集 仙台市文化財分布調査報告書II（昭和58年3月）
- 第52集 南小泉遺跡一部市町村街路建設工事調査第2次調査報告（昭和58年3月）
- 第53集 中川塙中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第54集 神明社遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
- 第55集 南小泉遺跡一青葉女子学園移軒新営工事地内調査報告（昭和58年3月）
- 第56集 仙台市高架鉄道開発道路調査報告書（昭和58年3月）
- 第57集 年報4（昭和58年3月）

職 員 錄

社会教育課	文化財調査係	主 任	半 結城 慎一	主 任	半 金森 安孝	主 任	半 長島 栄一
主 任 木野 昌一	係長(兼) 早坂春一	主 任	成瀬 茂	主 任	佐藤 甲二	主 任	荒井 裕
主 任 早坂春一	次 長 佐藤 隆	次 長	青沼 一民	次 長	吉岡 敏平	次 長	高橋 邦也
文化財管理係	監 理 佐藤 伸	主 任	柳沢 みどり	主 任	丁藤 肇	主 任	井野 実
主 任 大沢 伸大	佐 藤 裕	主 任	木村 浩二	主 任	渡部 弘美	主 任	浜 伸
主 任 山口 宏	加 藤 正義	主 任	福原 信孝	主 任	主 沢 光朝	主 任	野 伸彦
主 任 渡辺 洋一	主 任 川中 利和	主 任	佐藤 洋	主 任	高野 雄彦	主 任	高野 雄彦

仙台市文化財調査報告書第57集

昭和57年度

年 報 4

昭和58年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市国分町3-7-1

仙台市教育委員会社会教育課

印刷 株式会社 東 北 プ リ ン ト

仙台市立町24-24 TEL 63-1166

